



2026年10月期 1Q

決算説明資料

tripla株式会社

2026年3月

Agenda

外部環境に対する当社の事業耐性

2026年10月期 1Q 概要

会社概要

triplaの経営戦略

2026年10月期 業績計画 (再掲)

Appendix

Agenda

外部環境に対する当社の事業耐性

2026年10月期 1Q 概要

会社概要

triplaの経営戦略

2026年10月期 業績計画 (再掲)

Appendix

外部環境に対する当社の事業耐性

日中関係や中東情勢など、足元の株価はマクロ環境の影響を受けうる一方、当社事業はこれら外部要因の直接的な影響を受けにくい構造

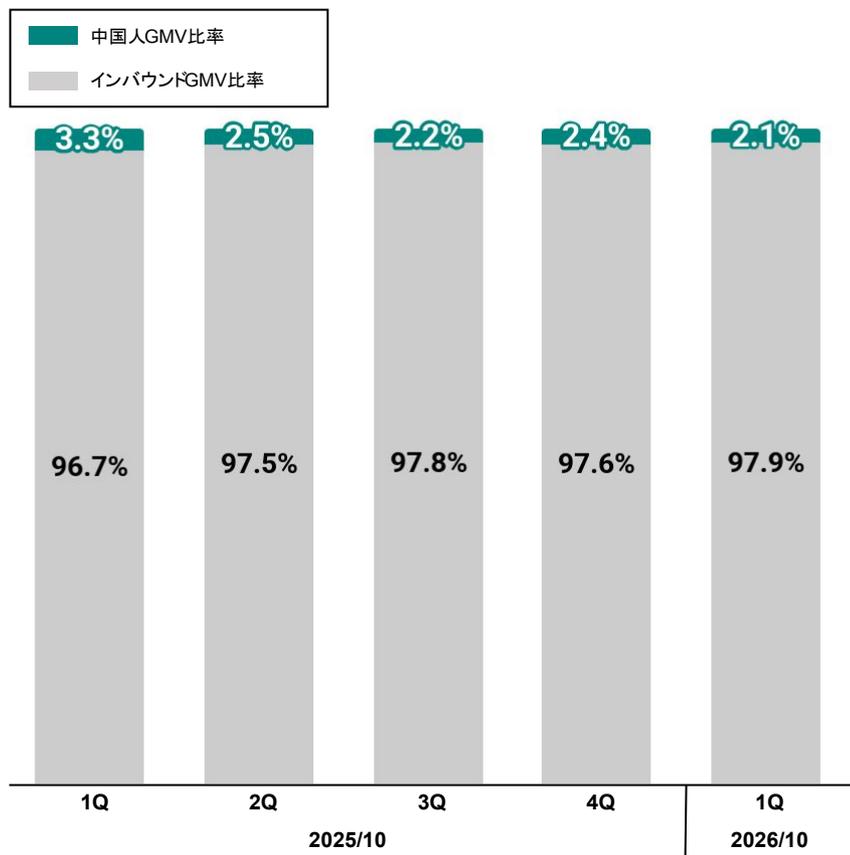
→株価はマクロで揺れるものの、当社業績への影響は限定的であり、主要KPIは着実に進捗

項目	市場環境・懸念	当社の見解
外部環境	地政学リスクや国際関係の不透明感を背景に、旅行関連銘柄には警戒感が先行しやすい	<ul style="list-style-type: none">● 中国・中東地域の渡航需要に直接連動する構造ではない● 他エリアの旅行者増加により一定の相殺が可能● 現時点で顕著な影響は確認されていない
AI競争環境	「アンソロピック・ショック」を含む競争環境の変化を受け、生成AIツールが既存SaaSを代替しうるとの懸念が高まりやすい	<ul style="list-style-type: none">● 当社は汎用AIツールやHorizontal SaaSではなく、旅行・宿泊領域に特化したVertical SaaSを提供しており、複数のシステムとの連携が求められるため競争軸は異なる● 一方で、競争環境に変化は生じうるため、当社も適応を進める
株価と実態	足元の株価はマクロセンチメントの影響を受けやすい	<ul style="list-style-type: none">● 事業進捗は計画に沿って推移しており、中長期の成長方針に変更はない● 主要KPIは着実に進捗

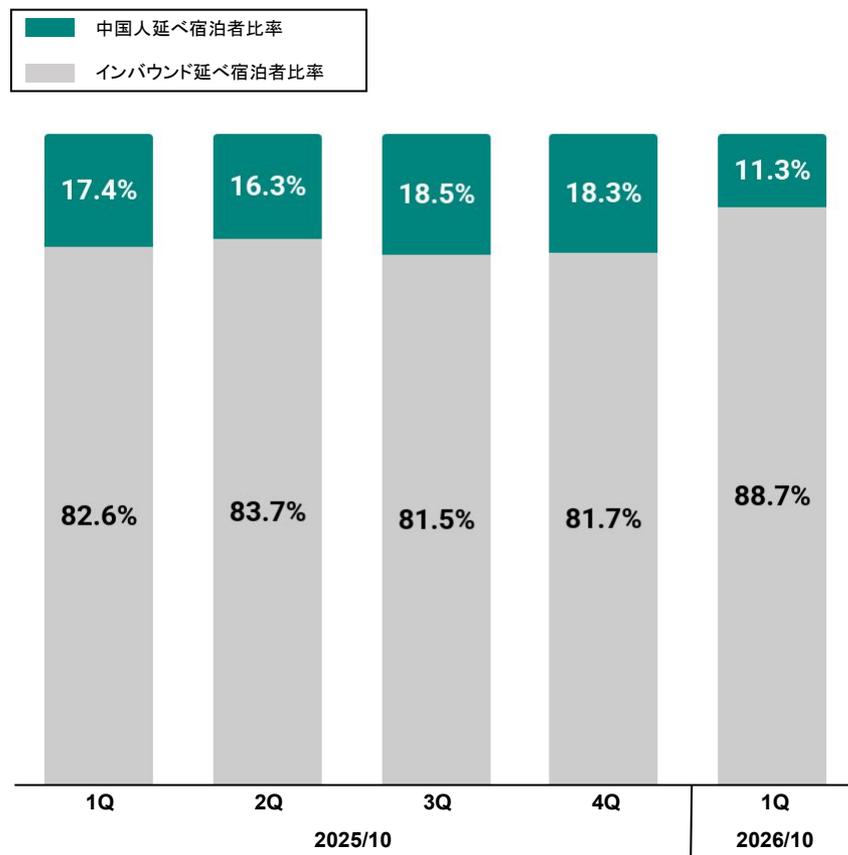
外部環境変化と当社の現状

- 中国需要の変動が当社業績全体に与える影響は限定的

当社の海外GMV内訳



海外宿泊者数内訳 (市場全体・観光庁統計より ※1)



※1: 観光庁統計については、直近データは 1次速報値を用いており、その後、確定値へと変更しているため、過去の決算説明資料の記載の数値から変更有。

Agenda

外部環境に対する当社の事業耐性

▶▶ 2026年10月期 1Q 概要

会社概要

triplaの経営戦略

2026年10月期 業績計画（再掲）

Appendix

財務概要

- 営業収益: **813百万円** YoY **+26.6%**
- 営業利益: **215百万円** YoY **+73.0%**
→ tripla Bookが成長を牽引

1Q 主要KPI

- Book施設数: **4,038施設** QoQ **+198施設**
- Book GMV(国内): **506億円** YoY **+32.4%**
- take rate: 過去最高の**1.42%**達成
→ MCP(決済機能)による成長がドライバー

事業環境 その他

- tripla Book好調
 - 日中関係や中東情勢など影響は非常に限定的
- tripla(Thailand)にて、タイのTPM社より予約エンジン事業の事業譲受決定
- 豪州にて子会社設立決定

2026年10月期 1Q - 連結・YoY

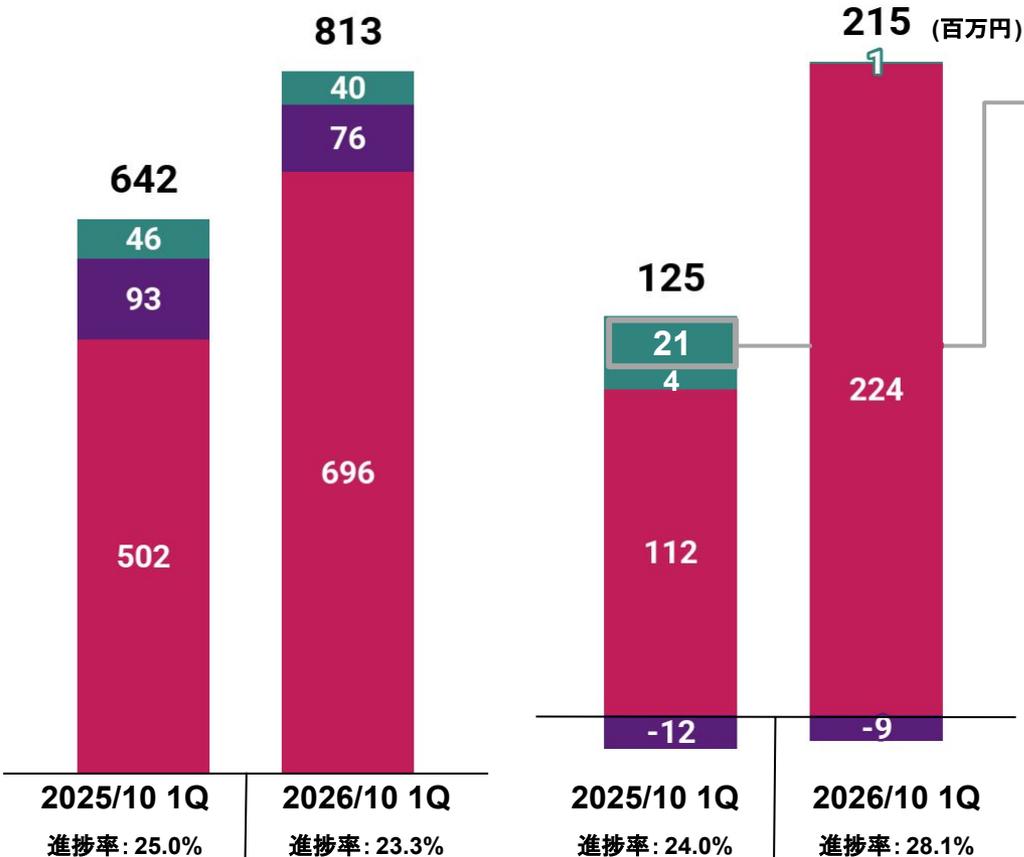
- 営業収益: 813百万円、YoY+26.6%
- 営業利益: 215百万円、YoY+73.0%

営業収益

営業利益



2025年10月期 1Qに一時的な収益及び費用
21百万円が発生
→グループ全体のための開発委託費の精算等



(百万円)

営業収益	25/10 1Q	26/10 1Q	進捗率	YoY
日本	502	696	23.5%	+39.9%
東南アジア	46	40	20.9%	▲14.1%
東アジア	93	76	22.7%	▲18.2%
合計	642	813	23.3%	+26.6%

営業利益	25/10 1Q	26/10 1Q	進捗率	YoY
日本	112	224	29.8%	+99.3%
東南アジア	25	1	6.1%	▲97.9%
東アジア	▲12	▲9	-	_*4
合計	125	215	28.1%	+73.0%

※1: 単体から韓国支店業績を除いた、日本のみの業績。

※2: tripla Singapore PTE. Ltd.、インドネシア事業を担う子会社 tripla BookandLink Indonesia、tripa Philippines Technologies Inc.の業績

※3: tripla Taiwan Co., Ltd.(翠普拉台灣股份有限公司)、Surehigh International Technology Inc.(旭海國際科技股份有限公司)、JASON FAMILY TRAVEL SERVICE CO., LTD.(品辰旅行社有限公司)

及び韓国支店の業績

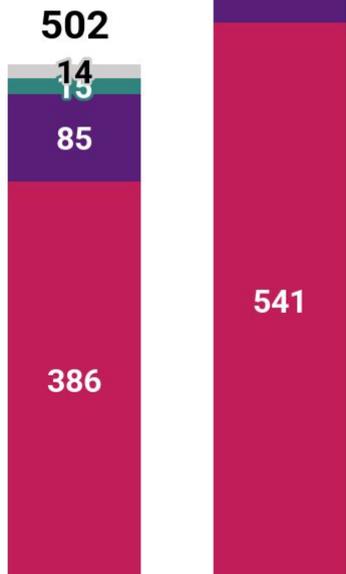
※4: 前期がマイナスであったため、YoY比較は非表示。

2026年10月期 1Q - 単体・YoY

- 営業収益: 702百万円、YoY+39.9%
- 営業利益: 221百万円、YoY+96.6%

営業収益

702



2025/10 1Q

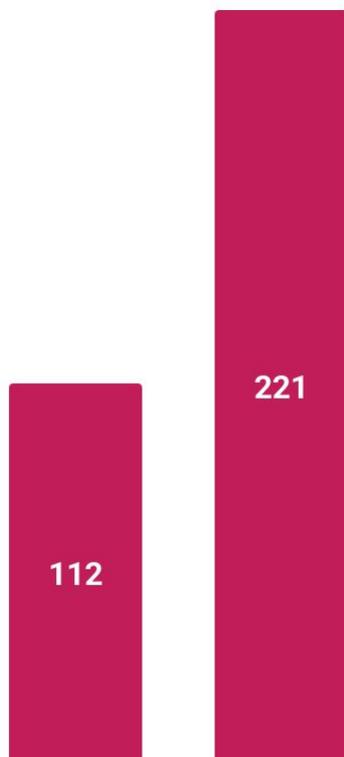
進捗率: 23.4%

2026/10 1Q

進捗率: 23.4%

営業利益

(百万円)

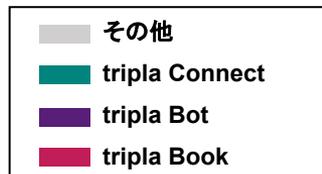


2025/10 1Q

進捗率: 21.1%

2026/10 1Q

進捗率: 29.5%



営業収益	25/10 1Q	26/10 1Q	進捗率	YoY
tripla Book	386	541	22.9%	+39.9%
tripla Bot	85	106	26.3%	+24.8%
tripla Connect	15	24	20.4%	+59.9%
その他	14	29	27.2%	+109.3%
合計	502	702	23.4%	+39.9%

tripla Bookの補足説明

・固定収益: 117百万円
YoY: +18.3%

・従量収益: 423百万円
YoY: +47.3%

2026年10月期 1Q - 東南アジア (インドネシア・タイ・フィリピン)・YoY

- 営業収益 40百万円、営業利益 1百万円

営業収益※1

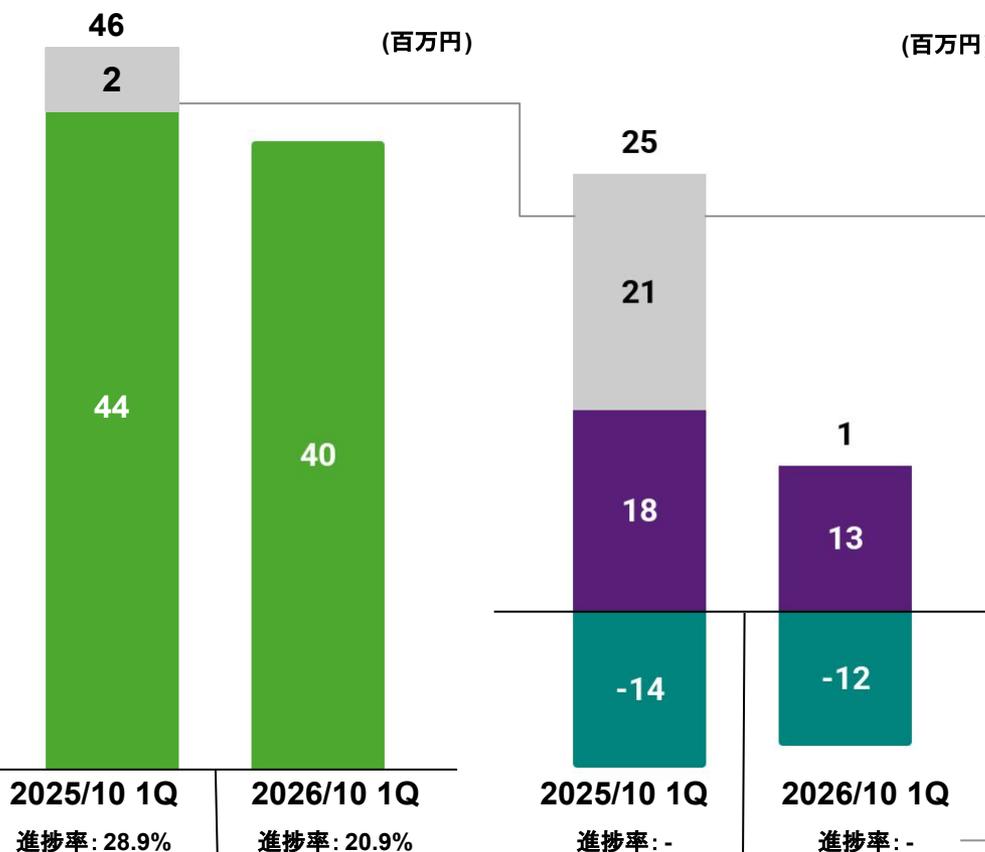
(百万円)

営業利益

(百万円)

■ 営業利益(のれん控除前)
■ のれん償却額※2

2025年10月期 1Qに一時的な収益及び費用
21百万円が発生
→グループ全体のための開発委託費の精算等



	25/10 1Q	26/10 1Q	進捗率	YoY
営業収益	46	40	20.9%	▲14.1%
営業利益	25	1	-	▲96.6%

2025年10月期に設立したフィリピン子会社での投資先行
導入施設数: 3,371施設

※1: tripla Singapore PTE. Ltd.、インドネシア事業を担う子会社 tripla BookandLink Indonesia、
tripla Philippines Technologies Inc.の業績

※2: tripla Singapore社(旧: Endurance社)の、のれん及び無形固定資産の減損により、のれん償却額が変動

2026年10月期 1Q - 東アジア(台湾・韓国)・YoY

- 営業収益 76百万円、営業利益 ▲9百万円

営業収益

(百万円)



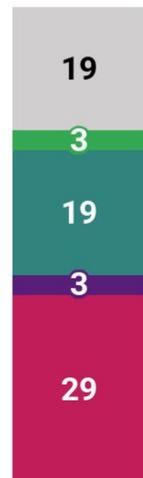
93



2025/10 1Q

進捗率: 35.9%

76

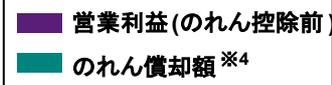


2026/10 1Q

進捗率: 22.7%

営業利益

(百万円)



▲12



2025/10 1Q

進捗率: -

▲9



2026/10 1Q

進捗率: -

2025年10月期 1Qに複数のSI開発案件があり、一時的な収益が発生

	25/10 1Q	26/10 1Q	進捗率	YoY
営業収益	93	76	22.7%	▲18.2%
営業利益	▲12	▲9	-	-

主要サービスの収益はYoYで増収
導入施設数: 1,724施設

2026年10月期 1Q 業績 (連結)

- 営業収益: 813百万円、YoY+26.6%
- 営業利益: 215百万円、YoY+73.0%

	2025/10 1Q実績	2025/10 通期実績	2025/10 1Q進捗率	2026/10 1Q実績	2026/10 通期計画	2026/10 1Q進捗率	YoY
営業収益	642,643	2,573,543	25.0%	813,696	3,493,224	23.3%	+26.6%
日本※1	502,187	2,150,330	23.4%	696,868	2,963,491	23.5%	+39.9%
東南アジア※2	46,938	162,398	28.9%	40,319	193,160	22.7%	▲14.1%
東アジア※3	93,517	260,509	35.9%	76,509	336,572	20.9%	▲18.2%
営業収益成長率	+86.6%	+37.8%	-	+26.6%	+35.7%	-	-
営業費用	517,365	2,053,702	-	598,110	2,737,503	-	-
営業利益	124,641	519,841	24.0%	215,586	755,721	28.1%	+73.0%
営業利益率	19.4%	20.2%	-	26.5%	21.6%	-	-
経常利益	150,243	583,993	25.7%	238,323	813,948	29.3%	+58.6%
当期純利益	120,535	505,441	23.8%	162,467	515,368	31.5%	+34.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	119,242	501,815	23.8%	161,842	510,312	31.7%	+35.7%

※1: tripla単体から韓国を除外した、日本エリアの業績。

※2 tripla Singapore PTE. Ltd.、インドネシア事業を担う子会社T. tripla BookandLink Indonesia、tripla Philippines Technologies Inc.の業績。

※3: tripla Taiwan Co., Ltd.(翠普拉台灣股份有限公司)、Surehigh International Technology Inc.(旭海國際科技股份有限公司)、JASON FAMILY TRAVEL SERVICE CO., LTD.(品辰旅行社有限公司)及び韓国支店の業績。

2026年10月期 1Q 業績 (単体)

- 営業収益: 702百万円、YoY+39.9%
- 営業利益: 221百万円、YoY+96.6%

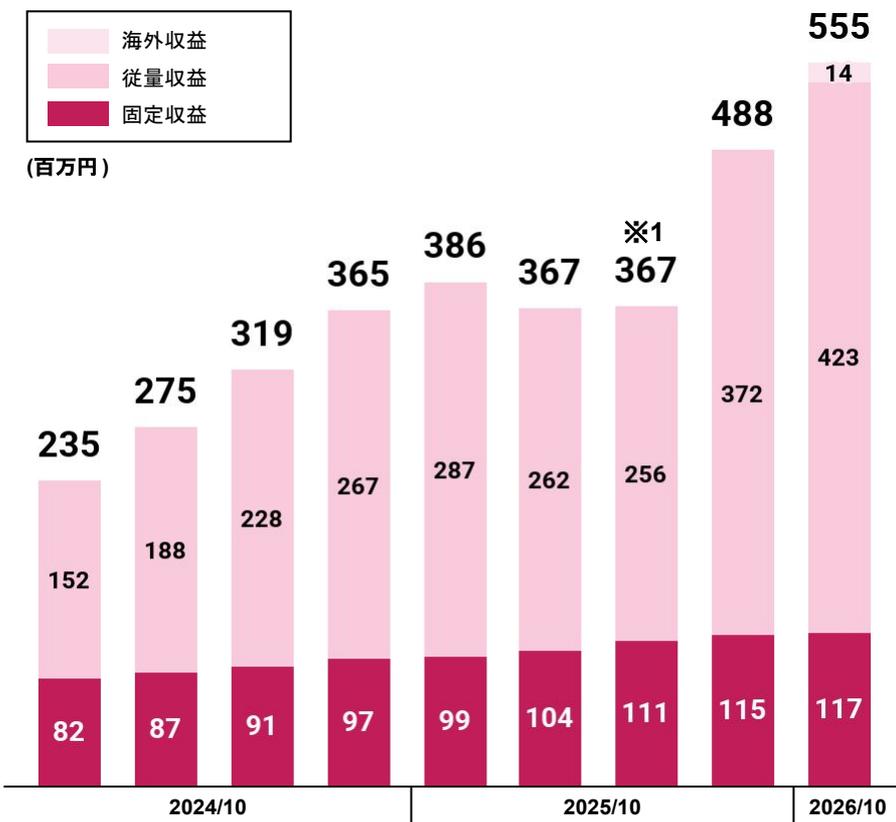
	2025/10 1Q実績	2025/10 通期実績	2025/10 1Q進捗率	2026/10 1Q実績	2026/10 通期計画	2026/10 1Q進捗率	YoY
営業収益	502,187	2,150,330	23.4%	702,513	2,998,820	23.4%	+39.9%
tripla Book	386,868	1,609,780	24.0%	541,092	2,361,326	22.9%	+39.9%
tripla Bot	85,667	403,727	21.2%	106,925	407,219	26.3%	+24.8%
tripla Connect	15,335	76,262	20.1%	24,527	120,205	20.4%	+59.9%
その他	14,315	60,559	23.6%	29,806	110,068	27.2%	+108.2%
営業収益成長率	+45.5%	+31.1%	-	+39.9%	+40.0%	-	-
解約率_Book ^{※1}	0.3%	0.3%	-	0.8%	0.3%	-	-
解約率_Bot ^{※1}	0.6%	0.4%	-	0.4%	0.6%	-	-
営業費用	389,650	1,616,387	-	481,265	2,256,570	-	-
営業利益	112,536	533,942	21.1%	221,248	742,250	29.5%	+96.6%
営業利益率	22.4%	24.8%	-	31.5%	24.8%	-	-
経常利益	107,809	555,908	19.4%	240,409	786,300	30.3%	+123.0%
当期純利益	84,480	473,024	17.9%	168,178	524,190	31.7%	+99.1%

(千円)

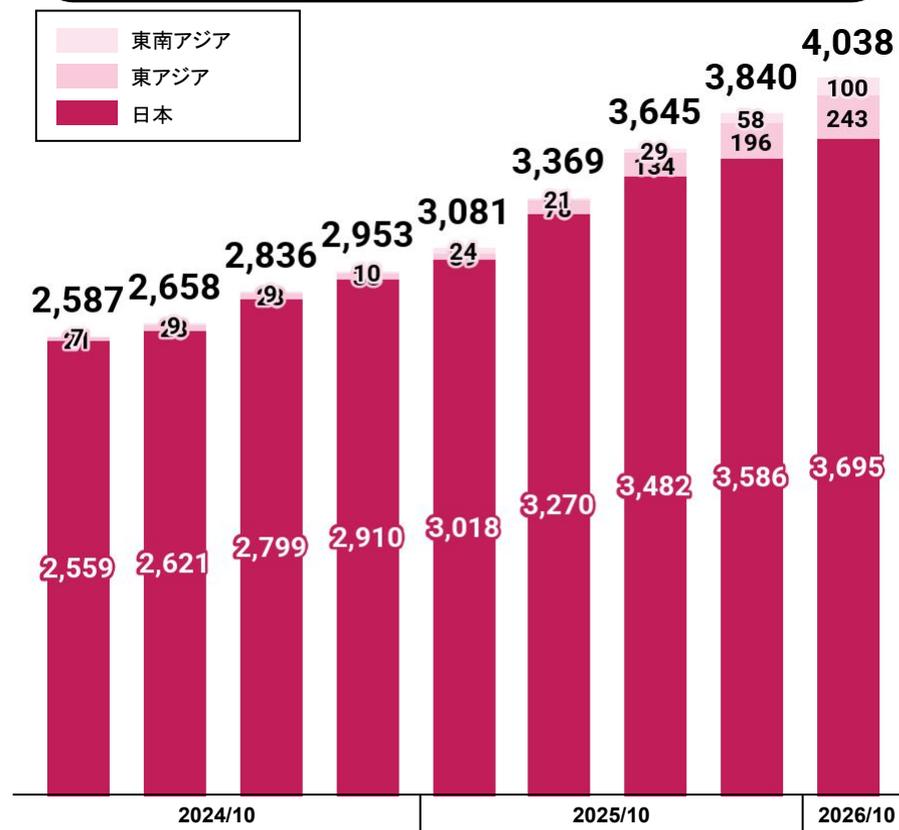
主要KPI - セグメント別 (tripla Book 1/3)

- 営業収益: YoY+39.9%
- 従量収益 (YoY +47.3%) が大きく牽引

Book営業収益 ※2



導入施設数 ※3



※1: 2025年10月期3Qの従量収益は、MCP収益の一時的な影響(約▲64百万円)を受けております。

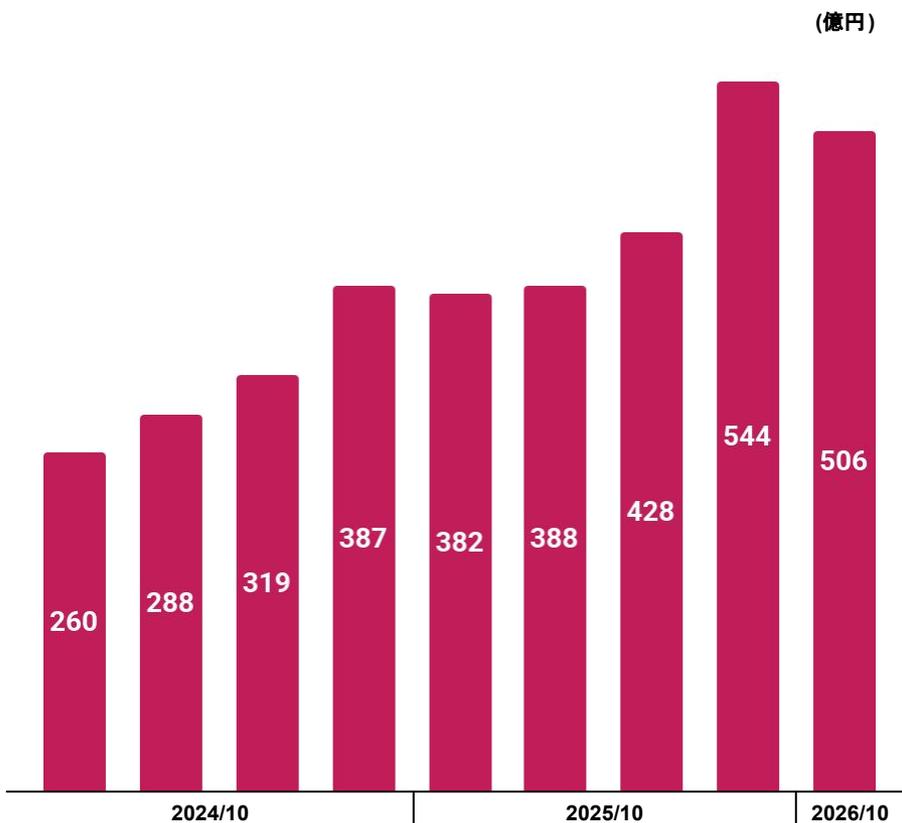
※2: 海外収益には、連結上の収益も含まれるため、単体上の営業収益内訳と一致しません。

※3: 2026年10月1Qの内訳としては日本3,695施設、東アジア(台湾・韓国243施設、東南アジアインドネシア、フィリピン、タイ等100施設)

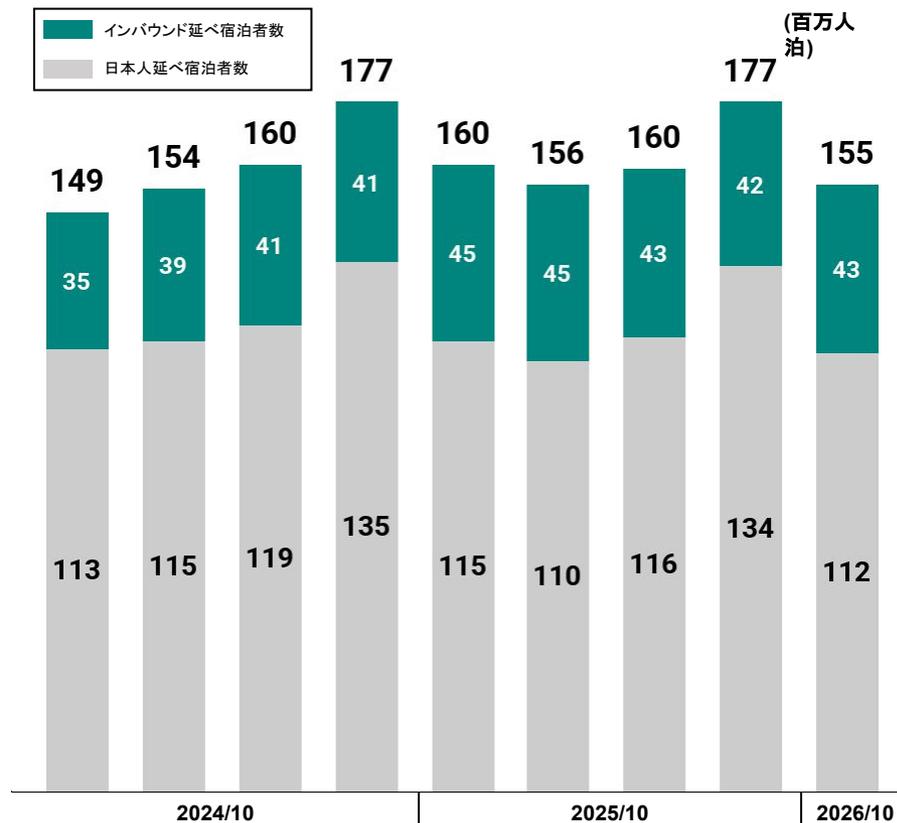
主要KPI - セグメント別 (tripla Book 2/3)

- 延べ宿泊者数がマクロ要因(日中関係)により YoYで微減
- 一方で施設数の積み上げにより国内取扱高 (GMV)は506億となり、YoY +34.2%増

当社の国内取扱高 (GMV)



宿泊者数(市場全体・観光庁統計より ※1)



※1: 観光庁統計については、直近データは 1次速報値を用いており、その後、確定値へと変更しているため、過去の決算説明資料の記載の数値から変更有。

主要KPI - セグメント別 (tripla Book 3/3)

- take rate: 過去最高の **1.42%**
- 前期MCP機能開発により take rateが大幅上昇

tripla Bookの収益構造

宿泊従量課金



決済従量課金

定められた手数料率に応じて課金

従量収益のtake rate推移



Net GMVに対するtake rate

= (宿泊従量課金による収益 + 決済従量課金による収益) ÷ (GMV - 宿泊従量課金の対象でない GMV^{※4})

※1: Gross Merchandise Valueの略。

※2: 各宿泊施設が、tripla Book契約前に利用していた他社公式サイト予約エンジンによる過去 1年間の宿泊実績 (月毎)を原則とする。また、コロナ禍の場合は当該期間を外して算定、契約時に決定しその後の変更は行っていない。

※3: 計画していたMCP決済開発の遅れとその開発の際に TTS, TTBの為替レートを設定ミスによる影響。

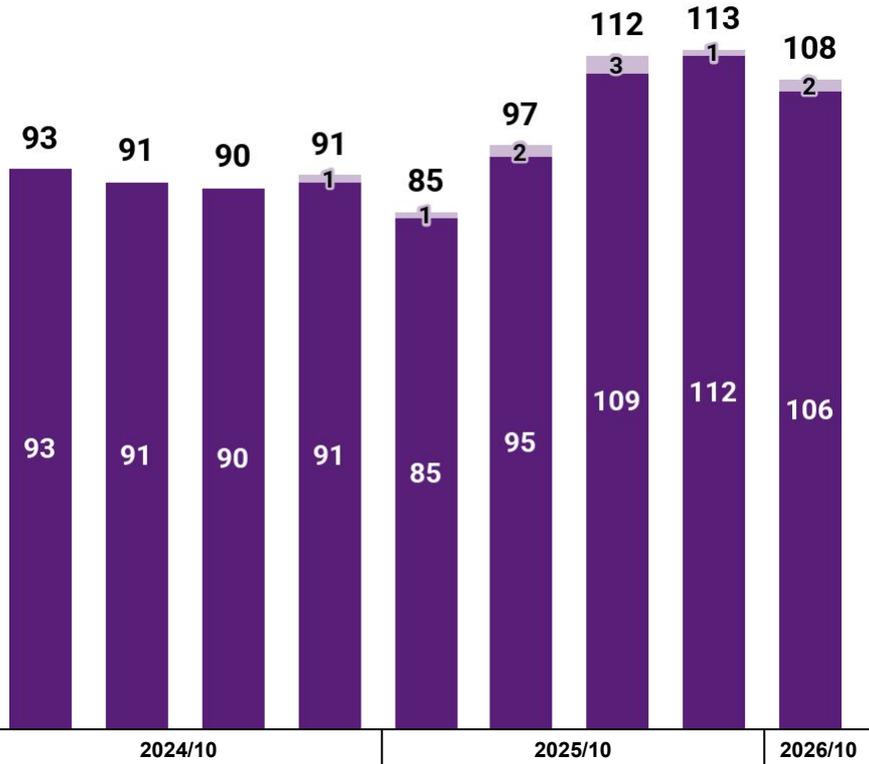
※4: 一部の大口顧客等に対する特殊な条件での契約により、「宿泊従量課金」による営業収益が発生しない GMV。「決済従量課金」による営業収益は発生。

主要KPI - セグメント別 (tripla Bot)

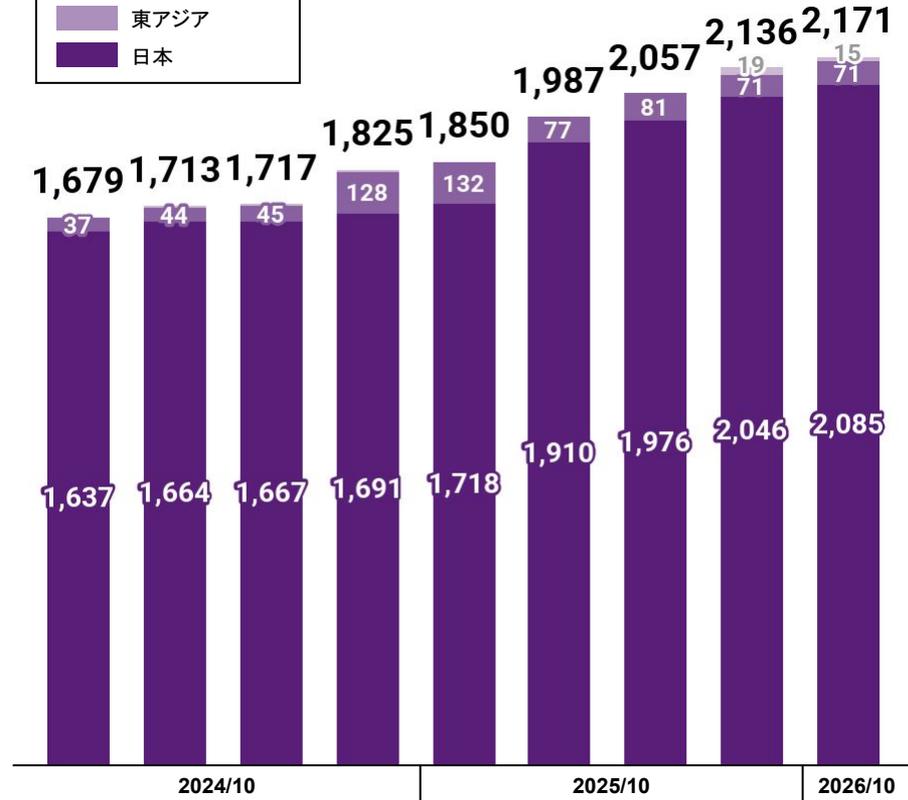
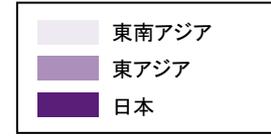
- 営業収益は Q1で108百万円, YoY:24.5%

Bot営業収益 ※1

(百万円)



導入施設数 ※2



※1:海外収益には、連結上の収益も含まれるため、単体上の営業収益内訳と一致しません。

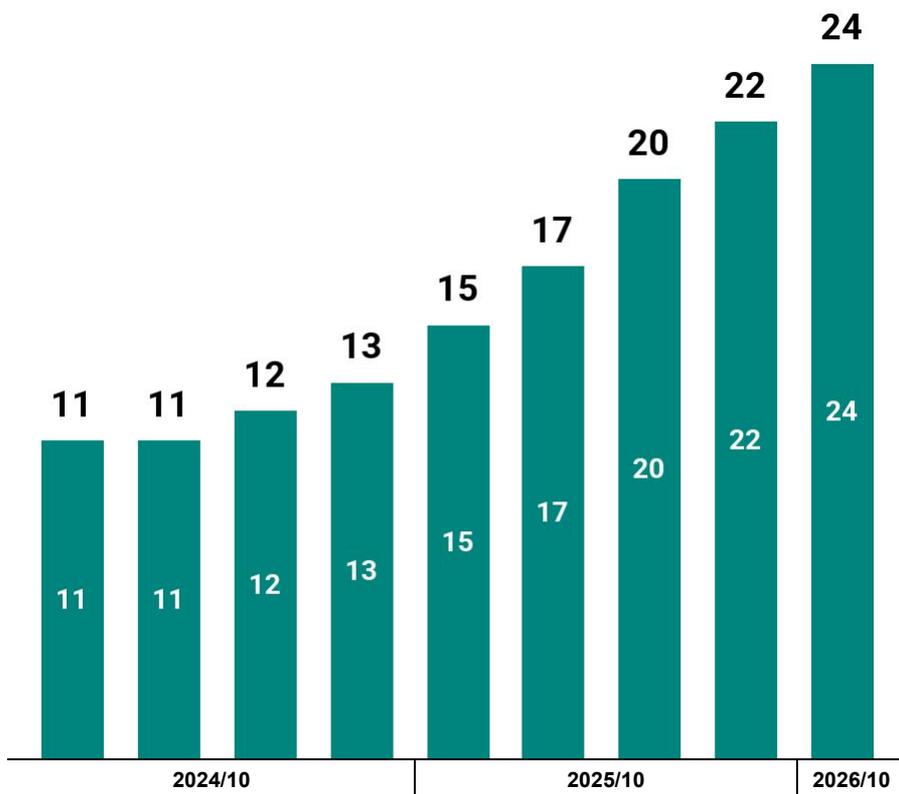
※2: 2026年10月 1Qの内訳としては日本2,085施設、台湾40施設、韓国31施設、東南アジア14施設

主要KPI - セグメント別 (tripla Connect)

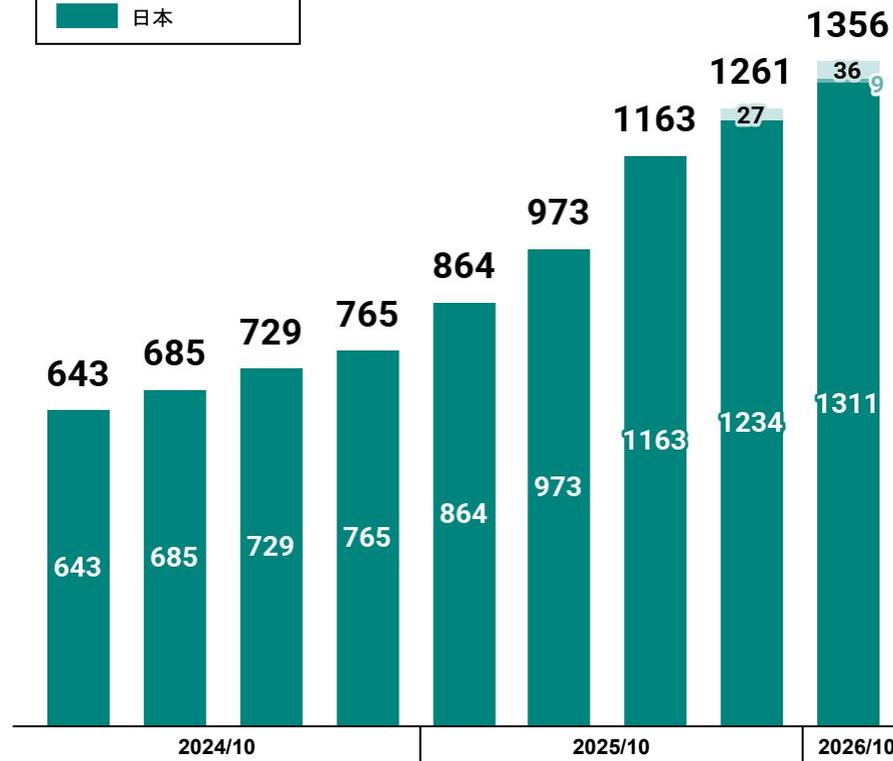
- 営業収益、導入施設数ともに堅調に成長
- タイ、フィリピンに加えて韓国でも導入済み

Connect 営業収益

(百万円)



導入施設数 ※1

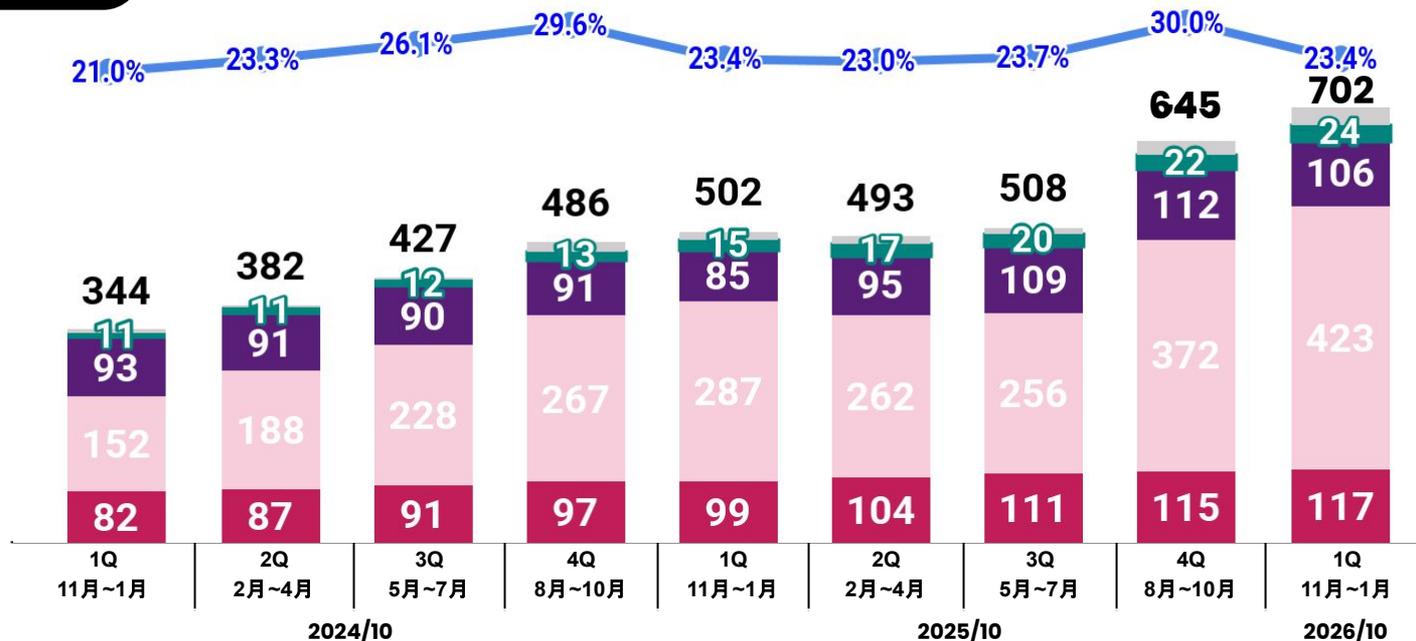


四半期ごとの営業収益の偏重 (単体)

● 旅行需要が高まる下期偏重の収益構造

営業収益

(百万円)



Book固定収益は tripla Bookの施設数の増加とともに増加。

Book従量収益は季節性があり、8月を含む4Qが強くなる傾向あり。

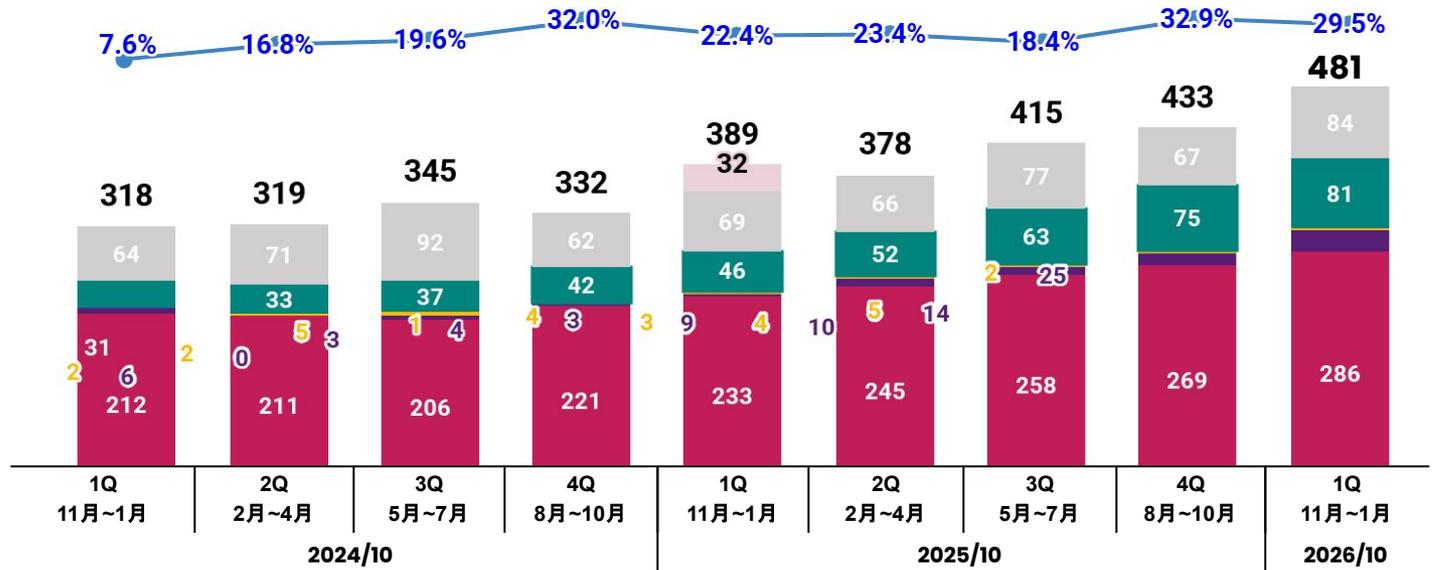
Botは固定収益と変動的な収益の両方があり、施設数の増加、季節性により影響。 ※1

※1: tripla Botは固定収益のみのプランと、固定収益と変動的な収益によって構成されるプランの双方があり季節性があるものの、固定収益のプランに移行を進めておりプラン移行によって内訳が変更される。

※2: 2024年10月期は通期の営業収益 (単体P/L)1,639百万円に対する四半期ごとの営業収益の比率、 2025年10月期は通期の営業収益 (単体P/L)2,150百万円に対する四半期ごとの営業収益の比率、 2026年10月期は通期計画の営業収益 (単体P/L)2,998百万円に対する比率。

四半期ごとの営業費用の推移 (単体)

(百万円)



	2024/10				2025/10				2026/10
従業員数 (単体) ※2	93人 (44人)	89人 (42人)	91人 (43人)	92人 (43人)	90人 (40人)	97人 (44人)	102人 (45人)	95人 (40人)	98人 (42人)
従業員数 (連結) (エンジニア等人数 ※3)	—	—	—	158人 (60人)	162人 (60人)	173人 (65人)	182人 (67人)	190人 (70人)	199人 (78人)

- 人件費 : 2024年10月期1Q→2Q→3Qの減少要因は期中退職による単体人員減。海外子会社を拡大しグループのコスト最適化を実現。 2025年10月期は人員数は堅調に推移。
- 通信費 : サーバ代等を含み、顧客の増加に伴って増える傾向 (比例的ではない)。
- BNL開発費 : 2025年10月期1Qは海外子会社 BookandLinkへの業務委託費の一時的な支払によるもの。グループ全体では影響なし。
- 営業費用全体: 営業収益と異なり、当社特有の季節性の要因はなし。

※1: 人件費は給与手当、法定福利費の他、福利厚生費、業務委託費、株式報酬費用等も含めて集計。
 ※2: 従業員数は臨時雇用者を除く2024年10月期より子会社から出向者を受け入れており、出向者数除めた人員数。
 ※3: エンジニア等人数はプロダクトマネージャー、デザイナー-QAテスター等の製品関連のメンバーを含む。

Agenda

外部環境に対する当社の事業耐性

2026年10月期 1Q 概要

▶ **会社概要**

triplaの経営戦略

2026年10月期 業績計画 (再掲)

Appendix

会社名 tripla株式会社

代表者 高橋和久・鳥生格

事業内容 インターネットサービスの企画運営、旅行業

資本金 8億7,240万円

ホームページ <https://tripla.io>

設立日 2015年4月15日

従業員数 単体: 98名
連結: 199名 ※2026年1月末時点

本社所在地 東京都新宿区西新宿 4-15-3

拠点 日本、台湾、香港、韓国、米国
シンガポール、インドネシア、タイ、フィリピン

旅行業登録 東京都知事登録旅行業 第2-7240号

triplaの事業 ※1

● 設立年
2015 年

● 事業拠点
9 力国

● 導入施設数 ※2
10,093

● サービス数
12 サービス

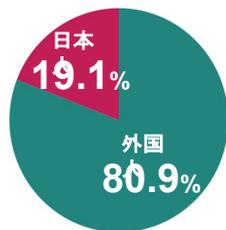
triplaの人材

● 従業員数 **199** 名 ※1

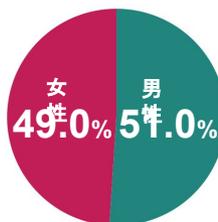
● 国籍数 **19** 力国 ※1

● 平均年齢 **35.9** 歳

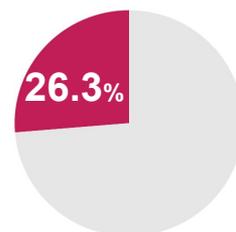
● 外国人比率 ※1



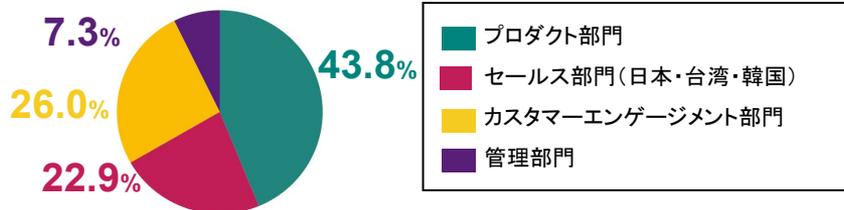
● 男女比率



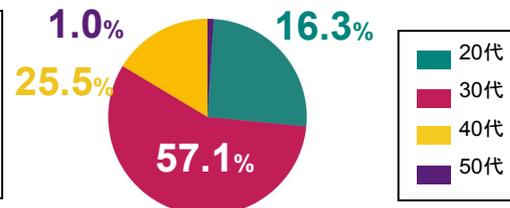
● 女性管理職の割合



● 職業別割合



● 年代別社員割合

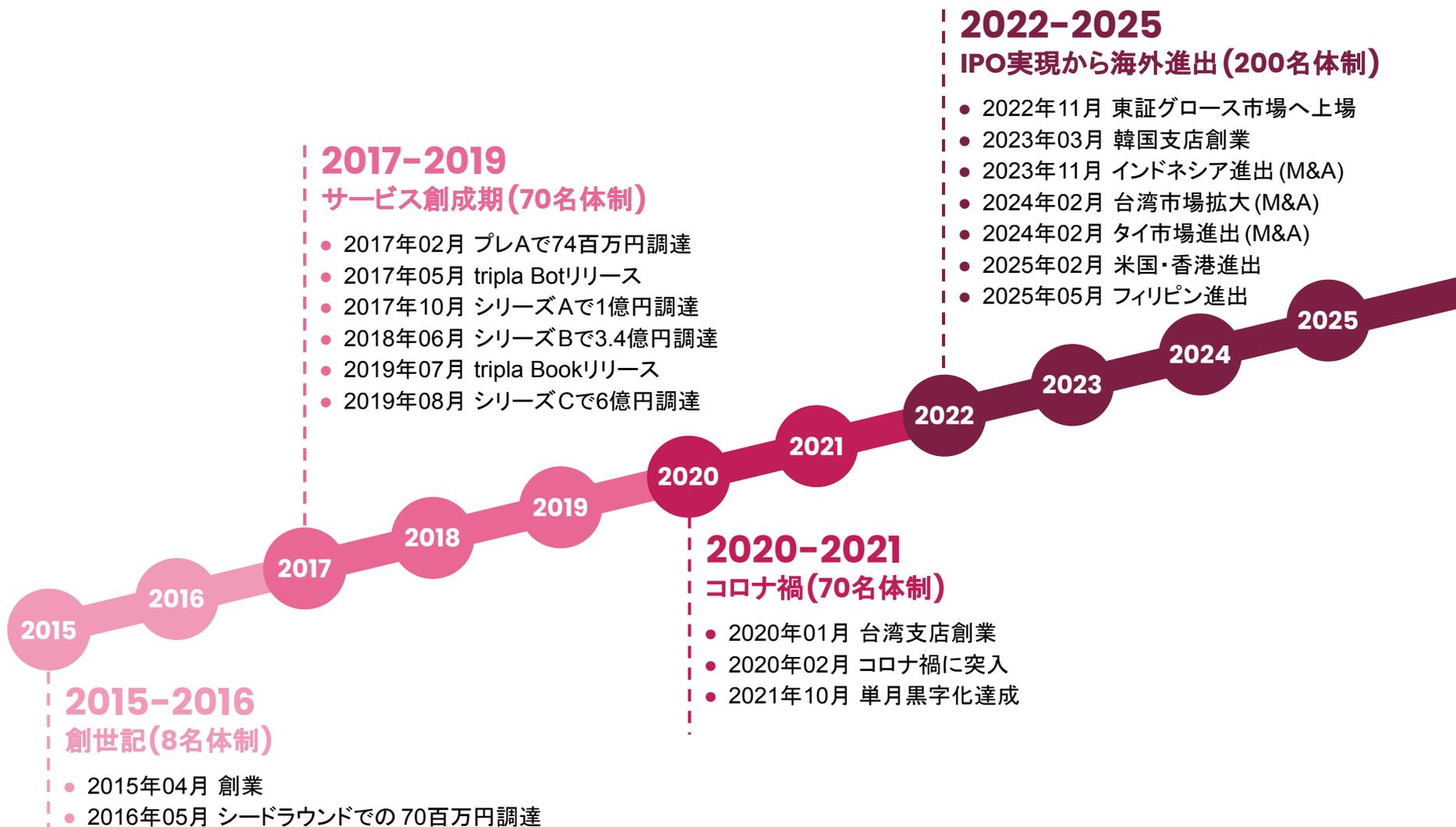


● 国籍別社員数



■ 日本 ■ 台湾 ■ 中国 ■ 大韓民国 (韓国) ■ 米国 ■ フランス ■ インド ■ インドネシア ■ カザフスタン ■ 英国
■ オーストラリア連邦 ■ エチオピア ■ エストニア ■ ドイツ ■ レバノン ■ モロッコ ■ オランダ ■ ロシア連邦 ■ ベトナム

※1: 子会社を含む。



経営陣の紹介



代表取締役 CEO

高橋和久 Kazuhisa Takahashi
経歴:

学歴: 北海道大学、北海道大学大学院
ウエイク フォレスト大学 MBA



代表取締役 CTO

鳥生 格 Kaku Toriu
経歴:

学歴: ニューヨーク大学
ビジネスブレークスルー大学MBA



執行役員 CFO

田中 大樹 Hiroki Tanaka
経歴:

学歴: 慶応義塾大学、慶応義塾大学大学院 MBA



執行役員 Business Development

奥林 正浩 Masahiro Okubayashi
経歴:

学歴: 神戸大学



執行役員 Customer Engagement

川本 洸達 Koutatsu Kawamoto
経歴:

学歴: 慶応義塾大学



執行役員 CTO

Hakim Mouslih

経歴:

学歴: Université d'Angers



執行役員 Product Management

Aude Moras
経歴:

学歴: IAE de Poitiers



執行役員 Overseas Partnership

Philippe Raunet

経歴:

学歴: Université de Versailles Saint-Quentin-en-Yvelines



常勤監査役

山添千加美 Chikami Yamazoe

経歴:

学歴: 立教大学

資格: 公認会計士

Purpose

最高の旅行ソリューションを通じて、宿泊施設の持続可能な成長と、世界中の地域社会の発展を支援する。

Drive the sustainable growth of accommodations and the development of communities around the world with the best travel solutions.

- 宿泊施設の利益を最大化し、施設改善や環境対策、ホスピタリティ向上のための投資をサポートすることで、地域社会の観光産業が持続可能な形で発展するよう推進します。
- 宿泊施設が地域社会との連携を強化し、地方創生を支援する取り組みを推進します。
- 宿泊施設が多様なニーズに対応し、インクルーシブで持続可能な観光体験を提供することを支援します。

Vision

顧客体験の向上と省人化を実現する

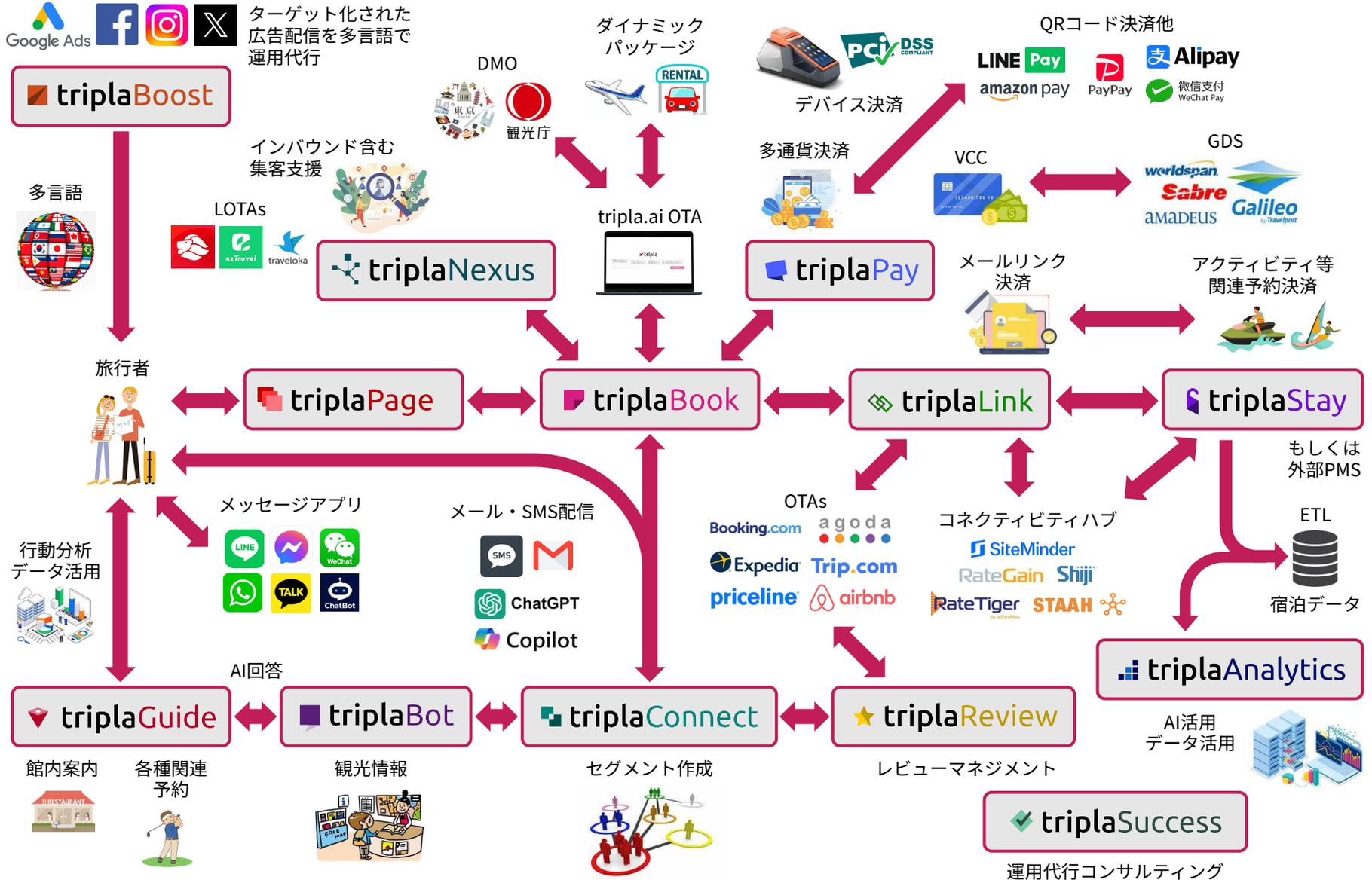
デジタルソリューションを提供し、旅行業界を革新する。

To revolutionize the hospitality industry by providing digital solutions that drive excellence in customer experience and operational efficiency.

Core Values

- 顧客満足実現へのマーケットイン
- オーナーシップ
- 結果に拘るアクション
- Market-In for Customer Satisfaction
- Ownership
- Action with Results
- イノベーションへの挑戦
- チームと自身の成長
- Challenge for Innovation
- Stretch the Team & Yourself
- 生産性の追求
- 謙虚、尊敬、信頼
- More with Less
- Humility, Respect & Trust

triplaのサービスマップイメージ



Agenda

外部環境に対する当社の事業耐性

2026年10月期 1Q 概要

会社概要

✦ **triplaの経営戦略**

2026年10月期 業績計画 (再掲)

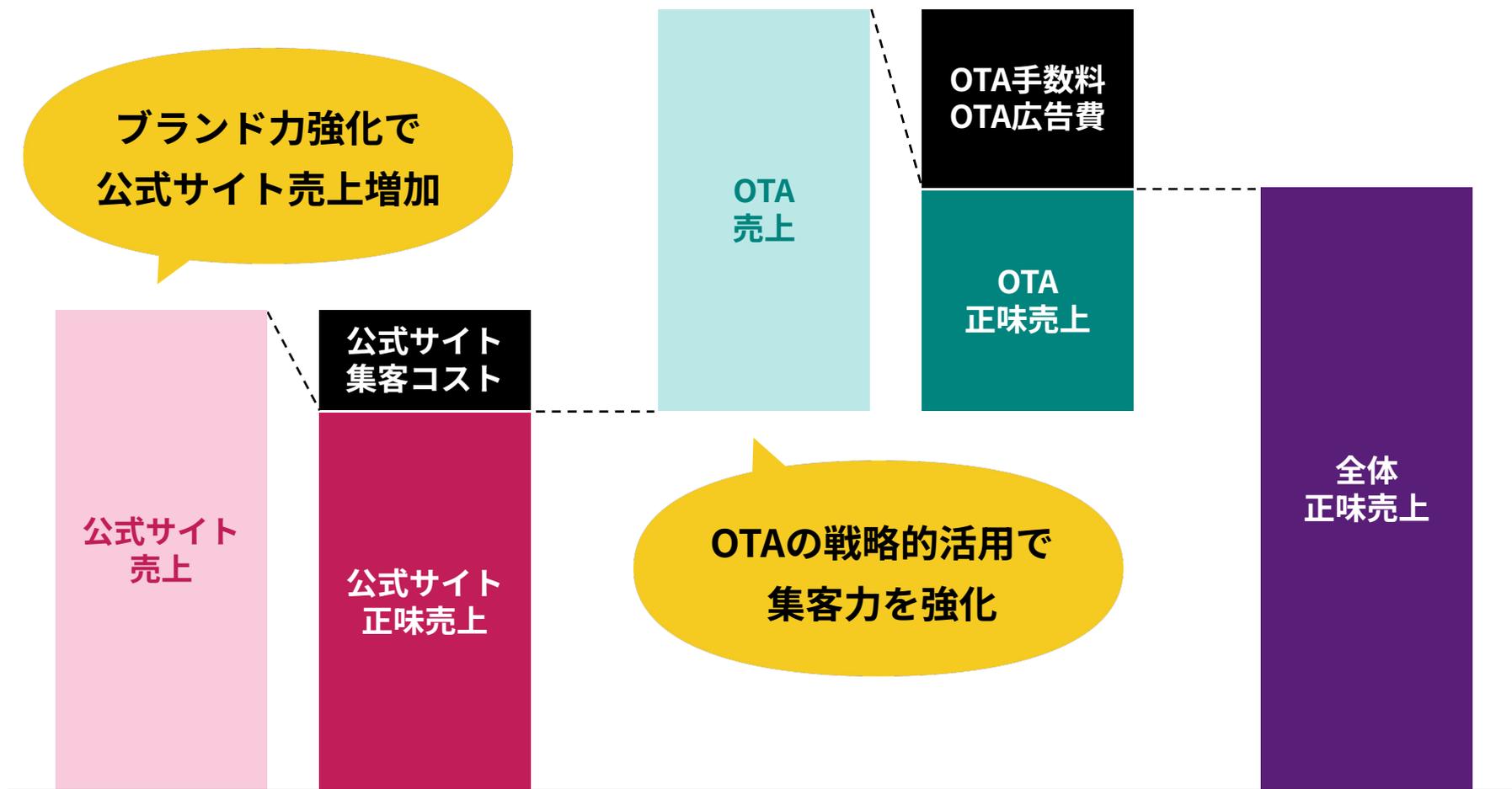
Appendix

AI検索への対応を行い、市場拡大と宿泊施設の収益の最大化へ寄与していく





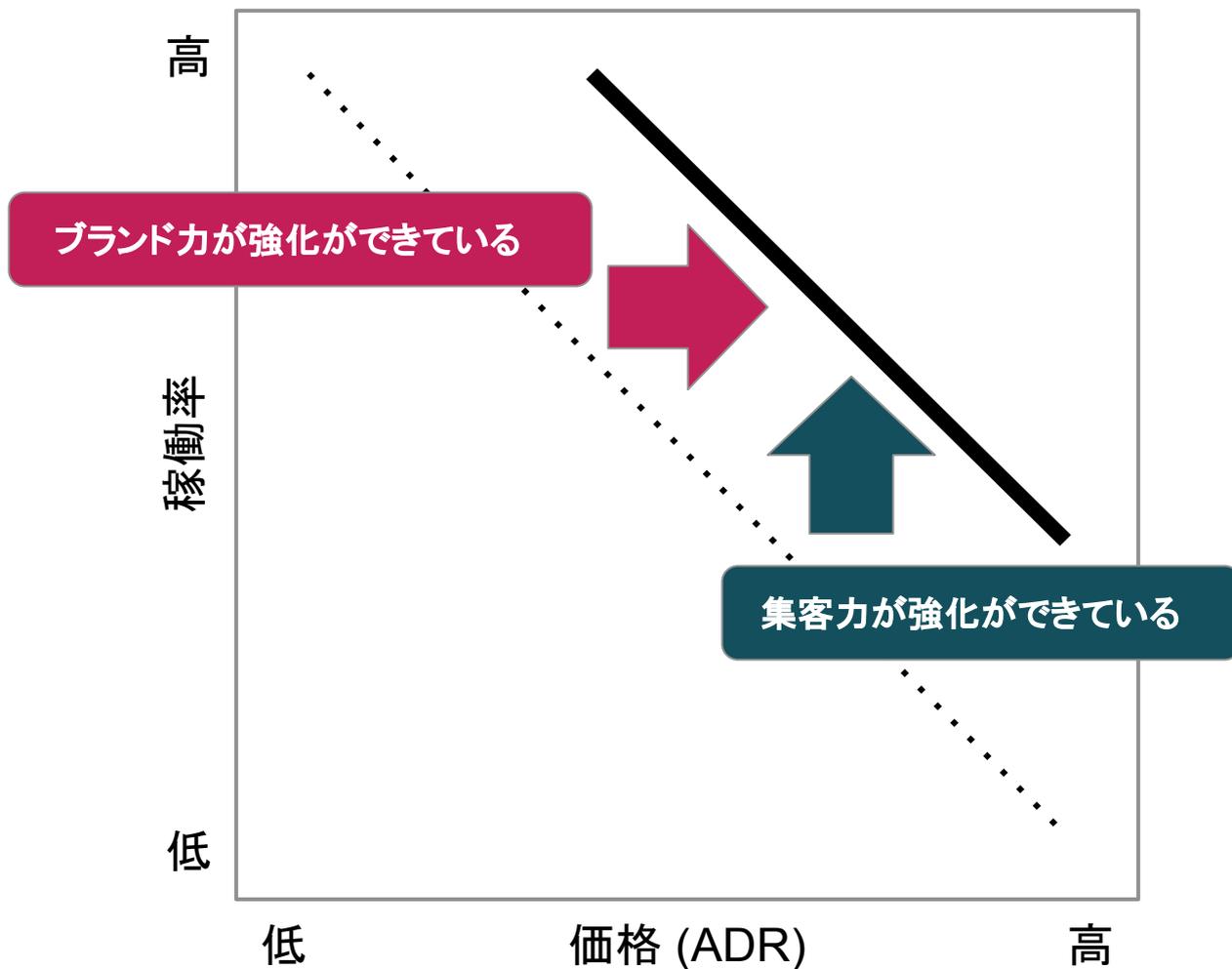
宿泊業の利益を最大化するメカニズム





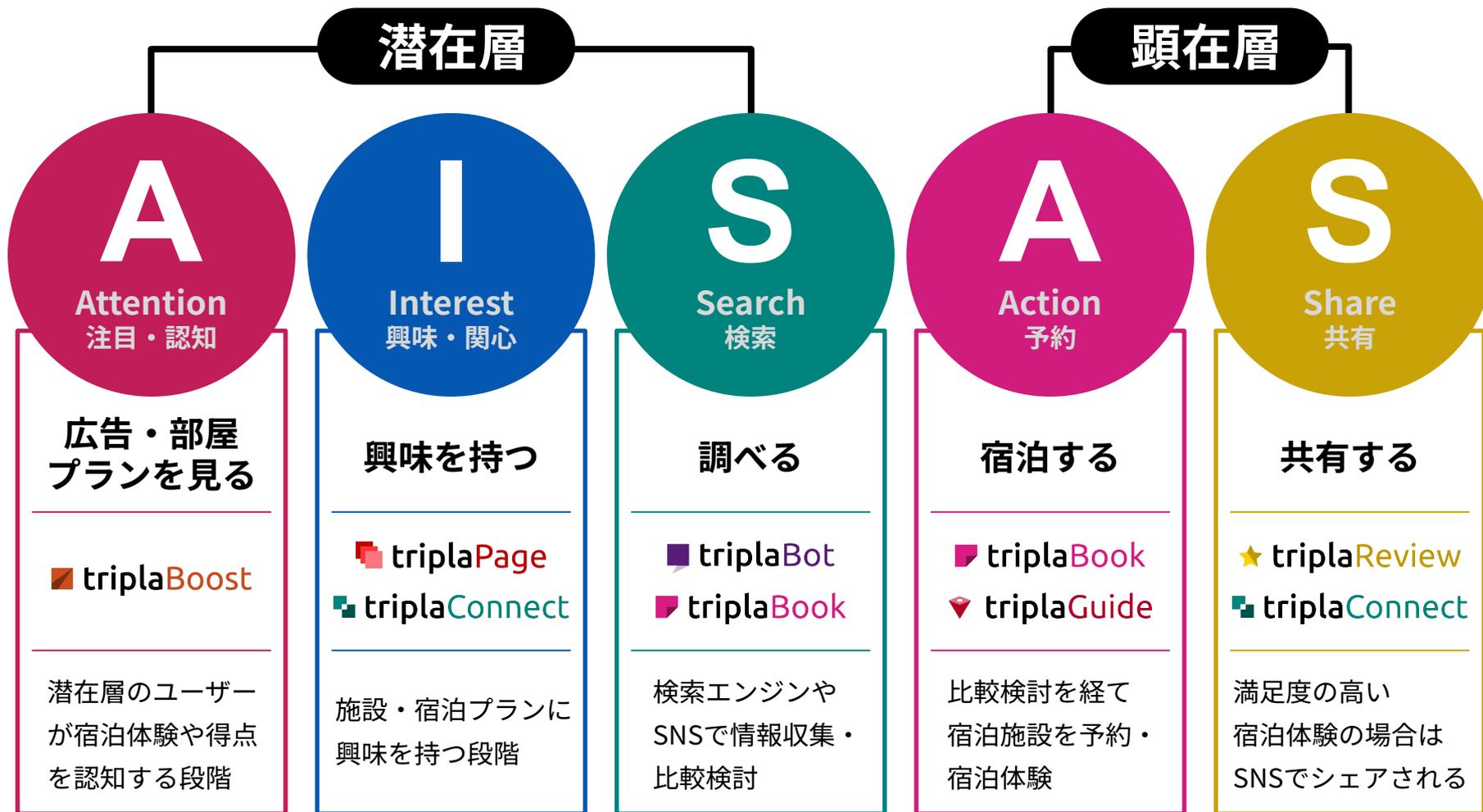
宿泊施設のブランド力と集客力強化への寄与

ブランド力の強化により ADRが、集客力の強化により稼働率が增加

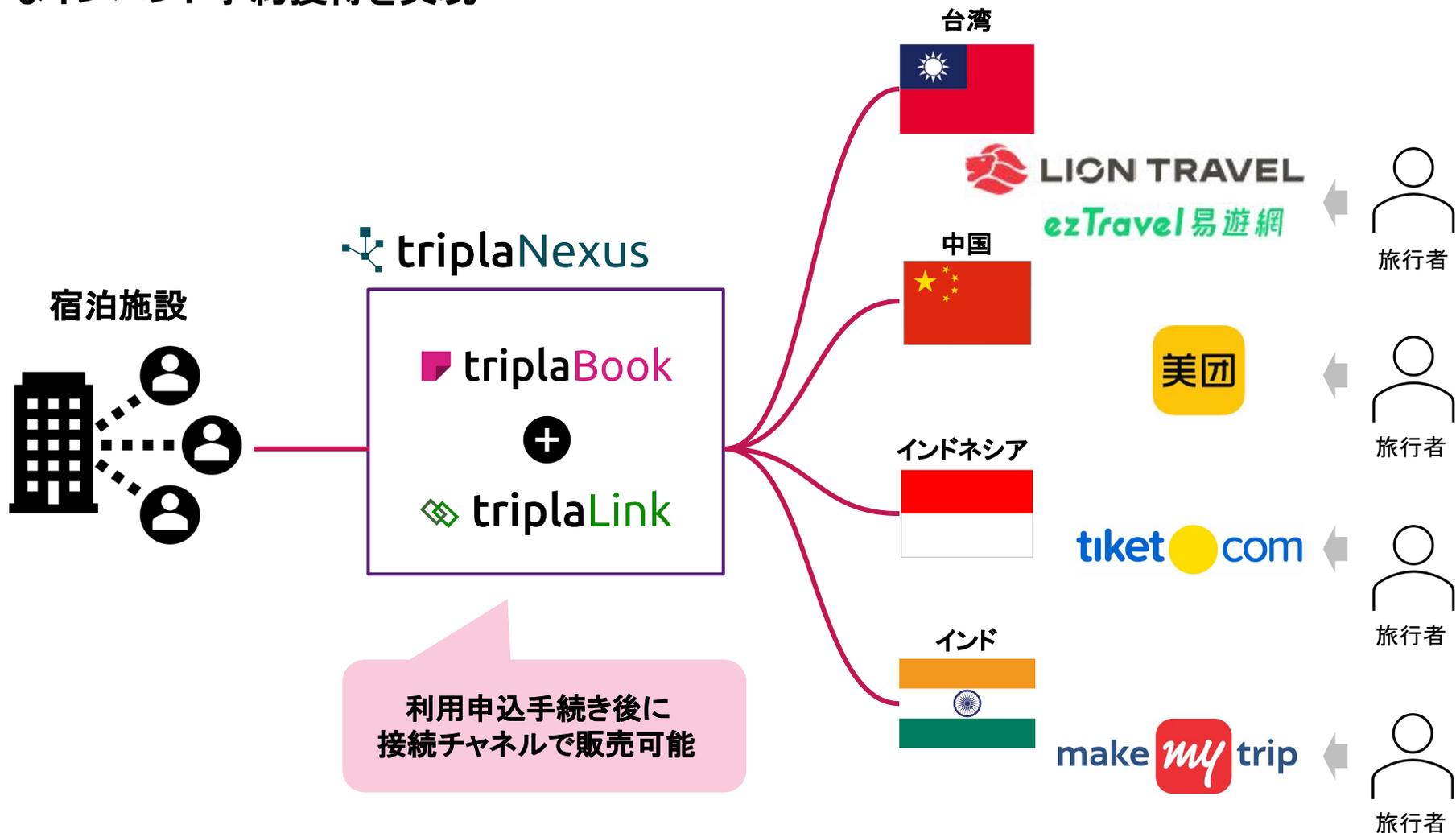




AISAS (アイサス)モデルに則った triplaサービスのブランド力貢献マップ

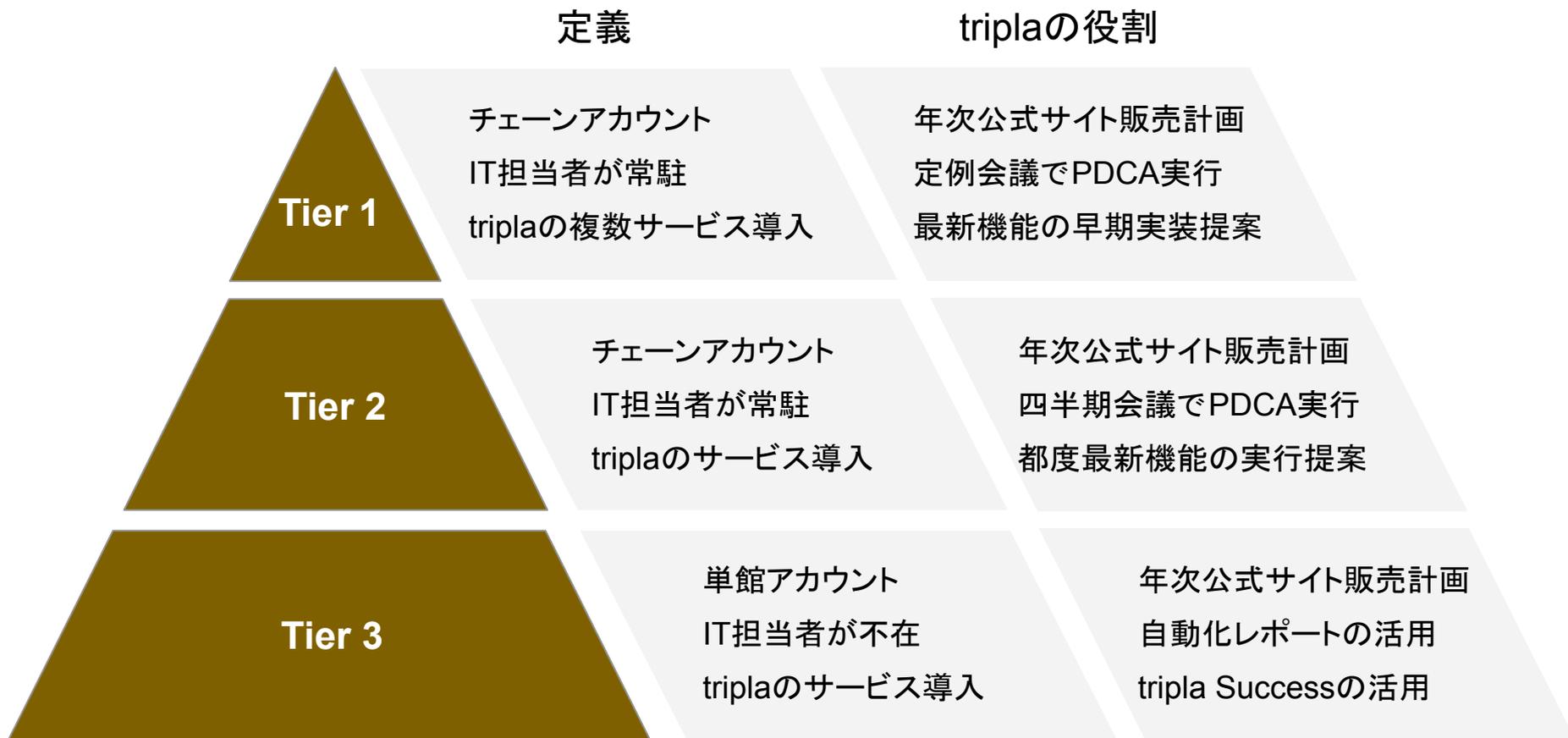


台湾・インドネシア・インド・韓国等のローカル OTAとシステム連携することで、戦略的なインバンド予約獲得を実現





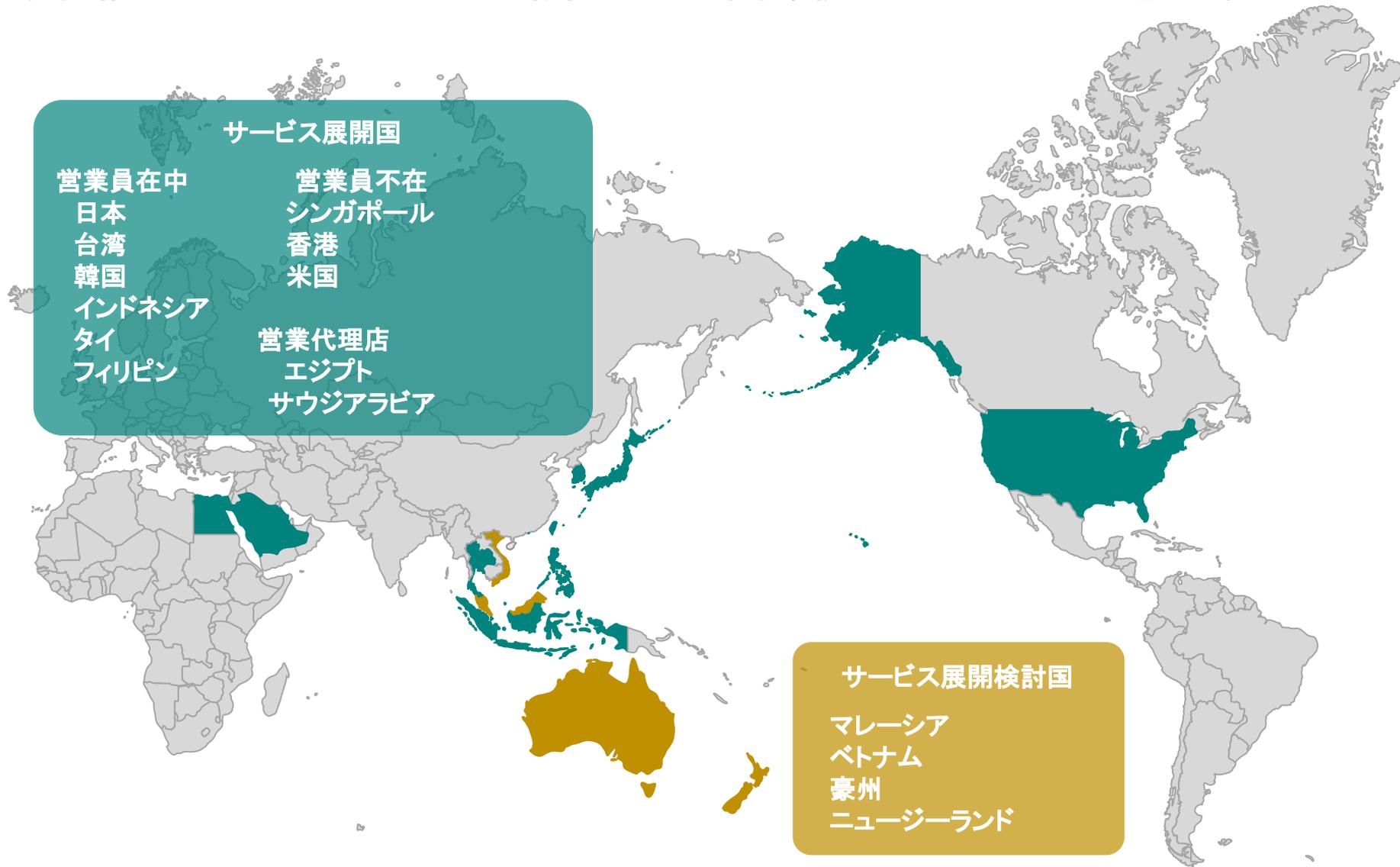
ハイタッチセールスから業務代行 (tripla Success)までTier別に異なるアクションを実施





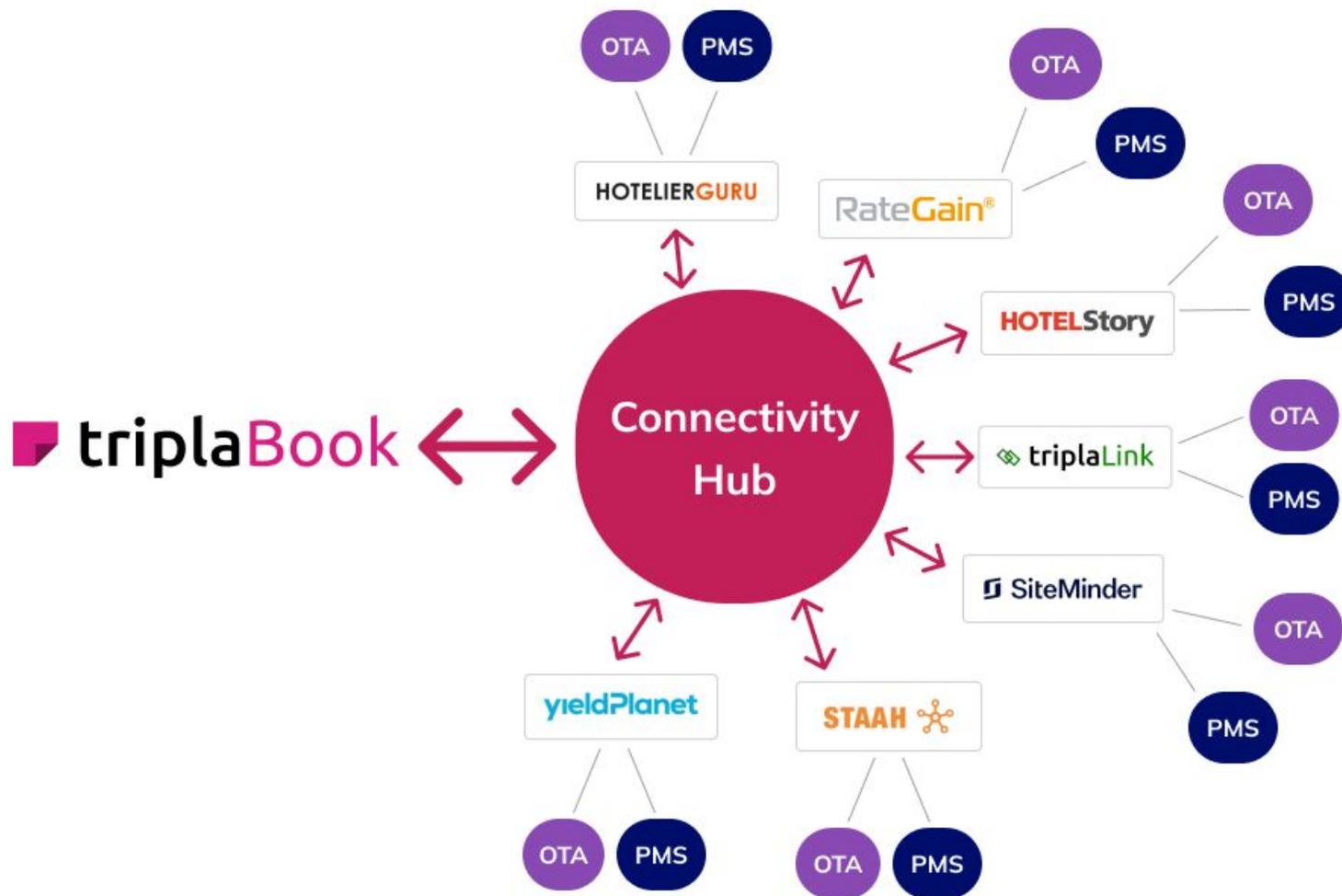
ターゲット市場拡大とローカライズ

多国籍メンバーが80%を占める組織体制により、市場拡大とローカライズを迅速に実現





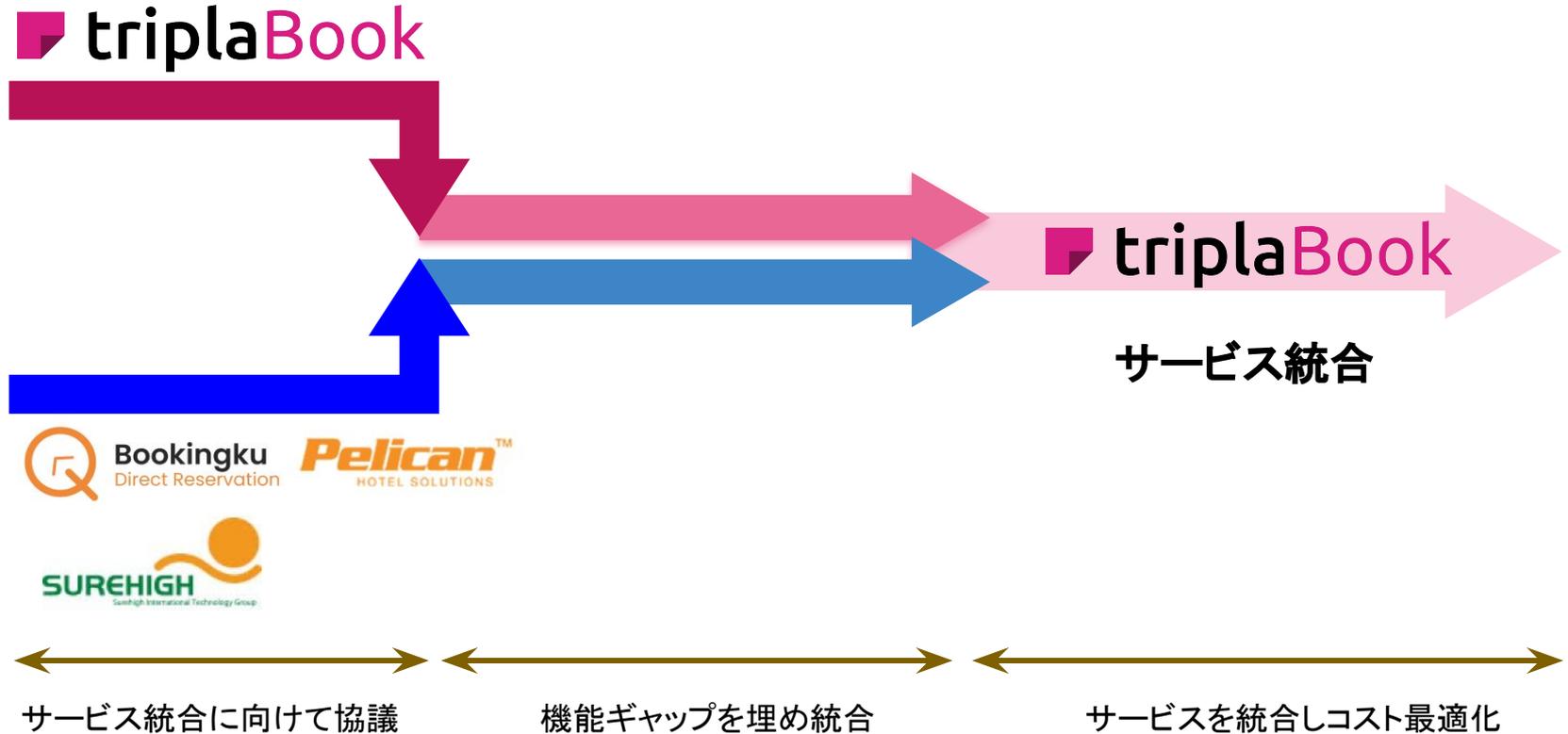
海外主要チャネルマネジャーとの連携を実現し tripla Bookの販売網を拡大





M&Aで獲得したサービスを PMIで一本化

2,000以上の施設が使用している予約エンジンを tripla Bookへ統合





国やエリア毎に求められる機能要件を開発

標準でローカライズ機能を実装することでより多くの国やエリアで実装

割引高速鉄道チケットを購入する

宿泊と台湾新幹線連携

日本の旅館で子供区分や食事付き対応

往路航空券を予約する 往復航空券を予約する

空室のみ表示

1 クエリ 2 選ぶ
列車のクエリ条件を入力してください 予約したタ

ご購入希望のチケットの詳細は以下の通りです。合計0円ですので、ご確認ください。

往復航空券 標準
2025年10月9 列車番号: 1210
日
台中09:08 ▶ 台北09:54
全会一致の1票 0元



確認する 前のステップに戻る

検索結果: 7 件



【数】 選択する

このプランには以下のものが含まれます

- WiFi: 無料
- 現地決済
- 食事: 朝食, 夕食
- 2025/10/16 23:59まで(現地時間) はキャンセル料がかりません。

豪華プラン 「自然の異う景色」 <ご宿泊> ★併設 ※当日 ※通常

One Bedroom Forest Villa (84 Sqm)



Rate Type	Average/Night	Conditions
Member Advance Purchase		Prepaid Non Refundable Breakfast included Terms & Conditions
Advance Purchase	IDR 3,037,500++	Prepaid Non Refundable Breakfast included Terms & Conditions
Flexible Rate	IDR 4,050,000++	Pay Later Breakfast included Terms & Conditions

早期予約割引

バリのニューピ (Nyepi) への対応



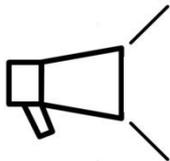


DMOが集客→送客→リピーター促進まで一気通貫で行うことにより、計画的に地域活性を取り組める

インバウンド誘客



地域の魅力をPR



地域会員の リピート促進



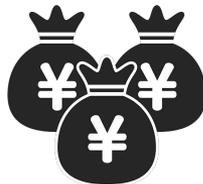
DMO



福島市での成功モデル を横展開

福島市観光ナビ

予約する予約 モデルコース 観光スポット 体験・ツアー グルメ・お土産 イベント 観光・宿泊



地域活性化に活用

地域会員 送客

手数料

宿泊施設





旅行者はOTAやサイトではなく、ChatGPTやGeminiに相談して旅行を計画し、予約する時代へ

triplaの3つの対応策

AEO (AI Engine Optimization)

AIが理解しやすい構造化データで情報を最適化し、AIによる推薦を可能にする。

ベストレート&自社予約API

主要AIプラットフォームからリアルタイムでベストレートで予約で直接販売。

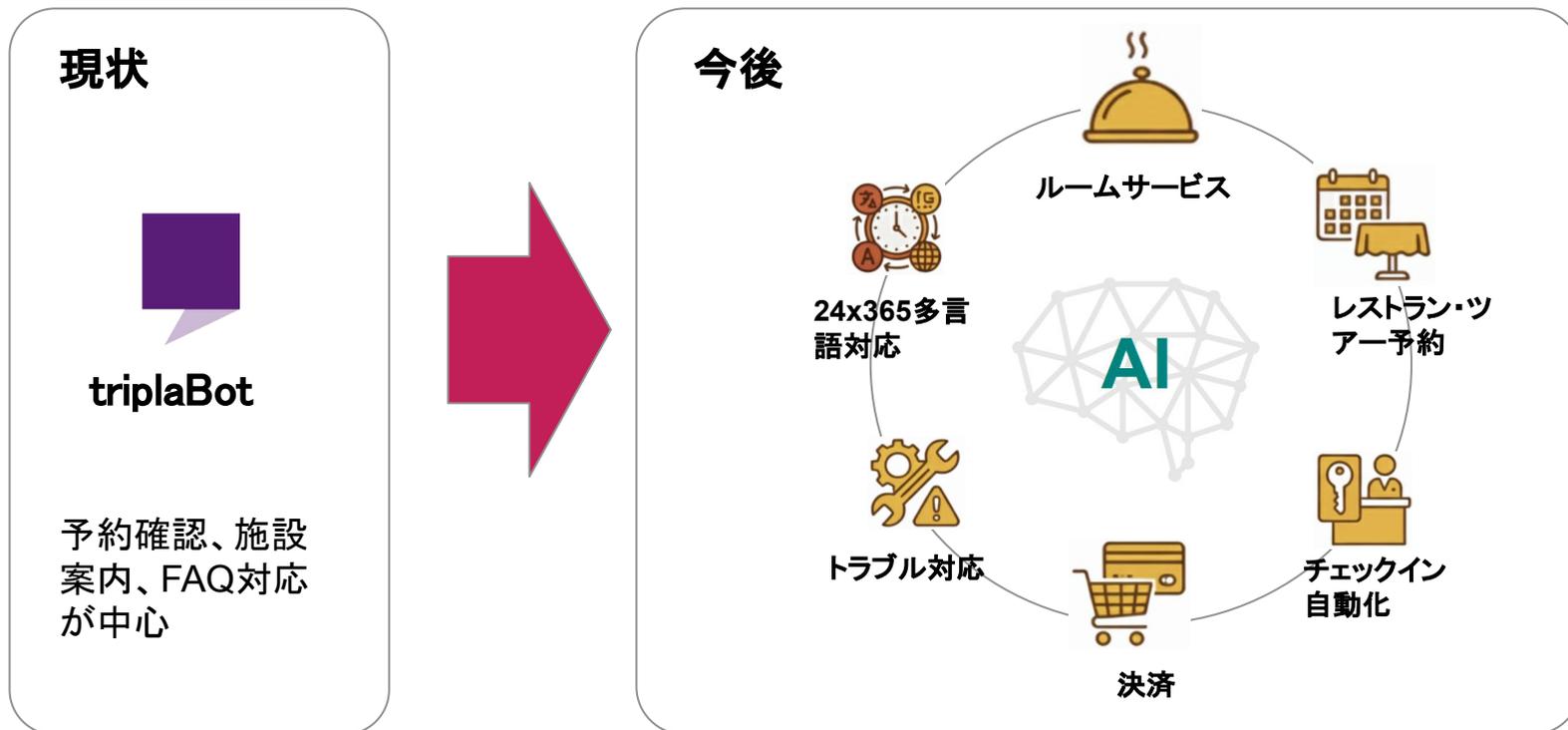
AIプラグイン提供

ChatGPTやGeminiなどにtriplaプラットフォームに接続して予約できるプラグインを展開。

“AI時代のSEO”と“AI時代のコンバージョン最適化”
を実現することで、市場をリードしていく

※ LLM (Large Language Model) : 大規模データを基に自然言語を理解・生成する AIで、ユーザーの抽象的な意図を解釈し最適な選択肢を提示する技術。
旅行領域では、旅行者の好みや条件を理解して旅程や宿泊先を提案するなど、検索や予約行動の在り方を大きく変革する可能性がある。

24時間365日稼働するマルチエージェント AIコンシェルジュ



・顧客体験（CX）向上と省人化を同時に実現

※ LLM (Large Language Model) : 大規模データを基に自然言語を理解・生成する AI で、ユーザーの抽象的な意図を解釈し最適な選択肢を提示する技術。
旅行領域では、旅行者の好みや条件を理解して旅程や宿泊先を提案するなど、検索や予約行動の在り方を大きく変革する可能性がある。

収益を最大化する自立型エージェント



担当者が経験に依存し、様々なツールで手動設定。結果を分析し、設定を修正するというサイクル



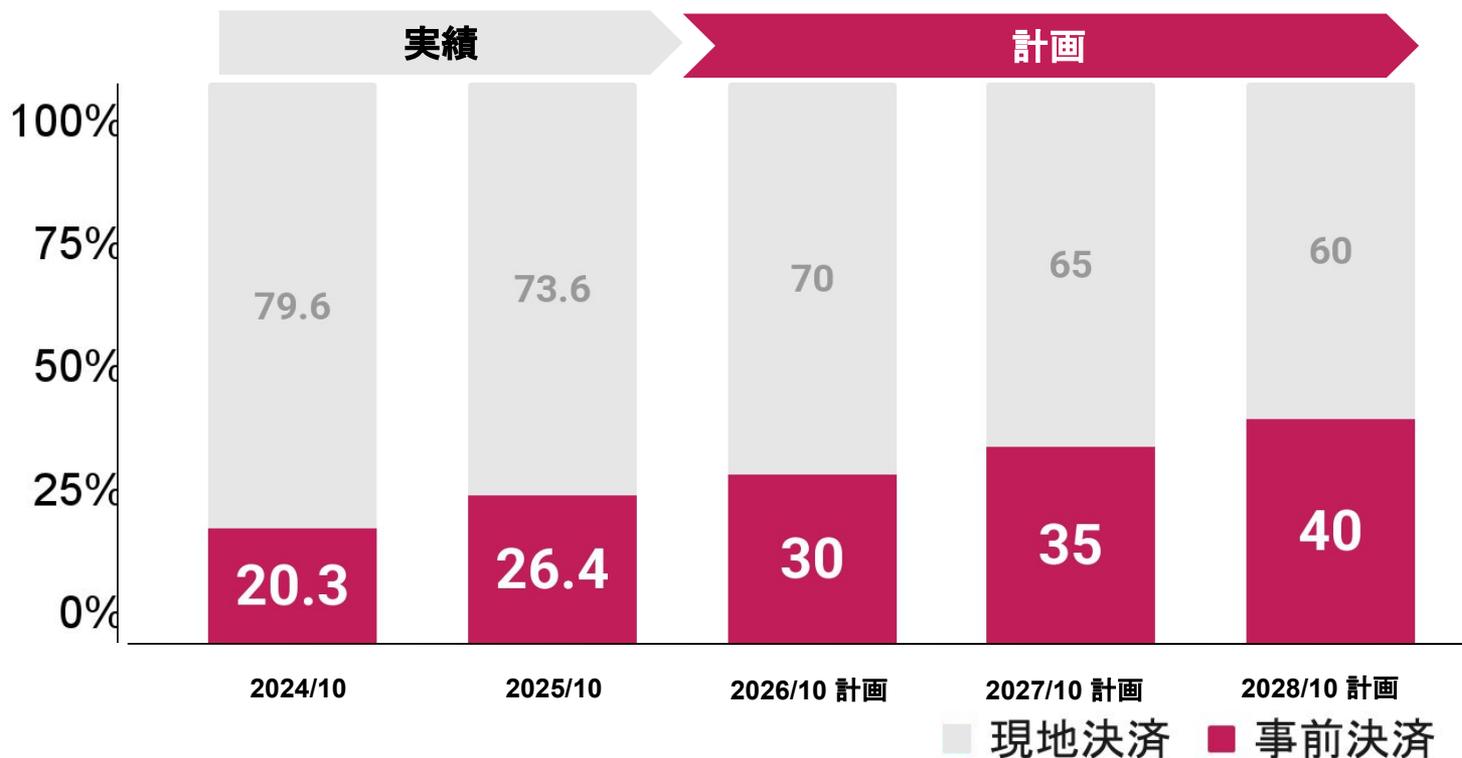
ホテル担当者は「自社予約比率を上げる」というゴールを伝えるだけ。AIが自律的に判断・提案・実行する

- ・ 専門人材が不要で、収益化を実現
- ・ 「How（どうやるか）」ではなく「What（何をしたいか）」に集中できる

※ LLM (Large Language Model) : 大規模データを基に自然言語を理解・生成する AI で、ユーザーの抽象的な意図を解釈し最適な選択肢を提示する技術。
旅行領域では、旅行者の好みや条件を理解して旅程や宿泊先を提案するなど、検索や予約行動の在り方を大きく変革する可能性がある。



2025/10期に26.4%を達成し、中長期的に事前決済率を増加させていく



得られる利点

- ホテルはキャンセル料の取り漏れがなくなり、キャッシュフローが改善する
- triplaは事前決済から得られる従量収益を増加することができる



決済手段と決済シーンの多様化

現金の代替

決済手段の多様化

多様化

銀行
振込

クレジットカード
非所有者も
事前に支払可能



コンビニ払い



PayPay

日本国内QR決済



台湾中心



Alipay



微信支付
WeChat Pay

中国インバウンド
中心



予約時

決済シーンの多様化

チェックアウト

予約からチェックインまで

公式
サイト

現地決済で予約したお客様に対して、メールやSMSでチェックイン前までに支払を完了依頼

OTA

OTAでの予約時に現地決済を選択したお客様に対して、メールリンクやSMSにて事前決済を tripla Pay で依頼する

チェックインからチェックアウトまで

チェックイン後に使用した Spa・ルームサービス等の支払を tripla Guide で完了

PMSとデータ連携を実施し、精算金額をメール・SMSで送信し、 tripla Guide や tripla Pay にて支払を完了できエクスプレスチェックアウトに寄与する



決済手段を国毎に多様化

様々な決済手段に対応できるようにサービスを拡大

銀行振込



デジタルウォレット



クレジットカード



コンビニ払い



QRコード決済



韓国のクレジットカード



ローカル決済手段





BNPL (Book Now Pay Later)オプションの実装



① 宿泊予約&クレジットカード登録

③ チェックイン日近くに決済



② 宿泊予約 & BNPL

⑥ 宿泊完了後に入金

④ 決済実行

⑤ 入金



ペイメント会社



宿泊施設

クレジットカード決済失敗時にのみ現地決済への切替機能

実装済み



① 宿泊予約&クレジットカード登録



③ 現地決済で宿泊予約

② 2回以上決済失敗



ペイメント会社



宿泊施設

Agenda

外部環境に対する当社の事業耐性

2026年10月期 1Q 概要

会社概要

triplaの経営戦略

➤ **2026年10月期 業績計画 (再掲)**

Appendix

2030年10月期に営業収益 **100**億円を目指す

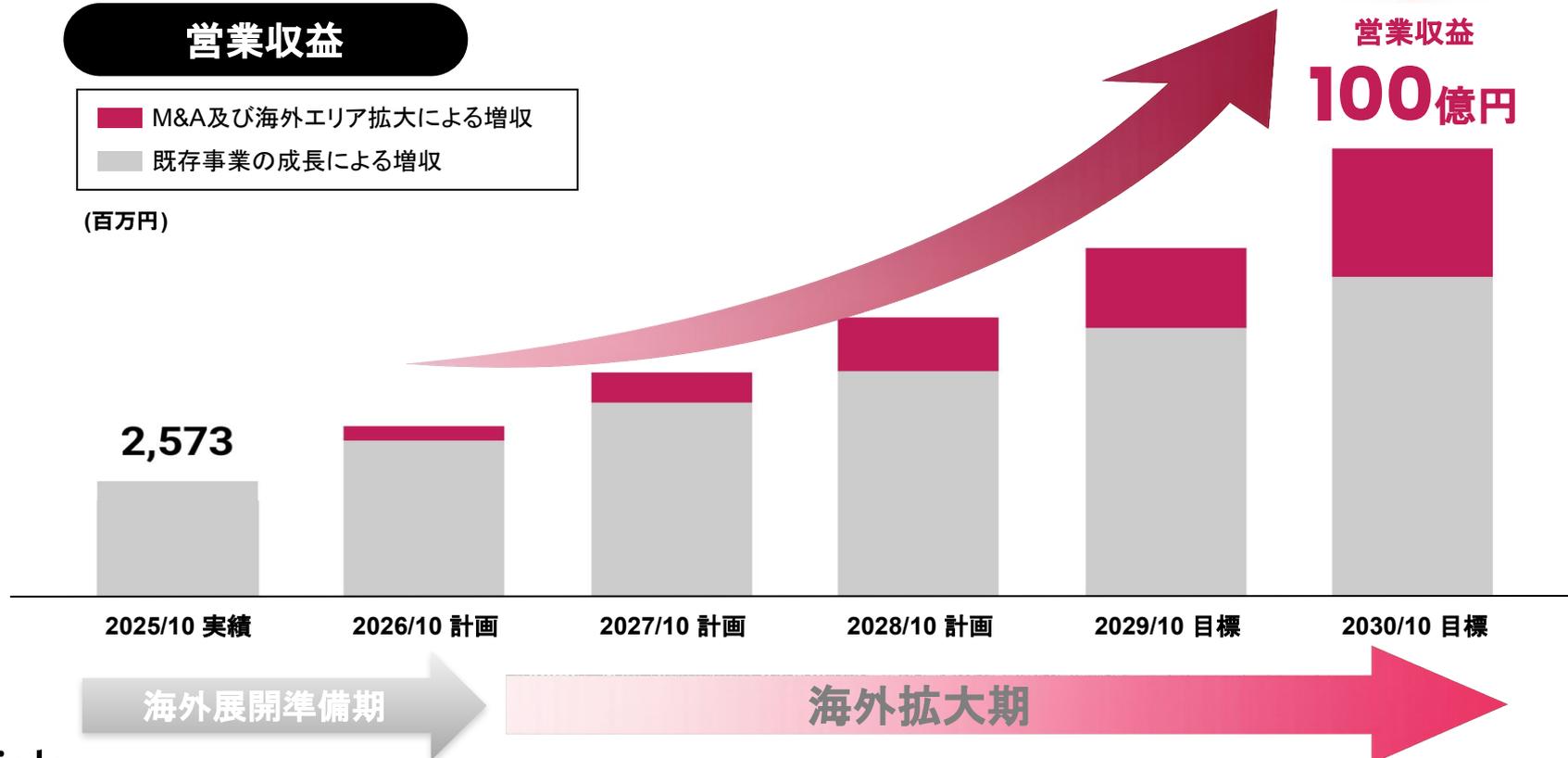
 M&A による海外事業ポートフォリオの拡大

 欧米・中東を含めてサービス展開国の拡大

営業収益

-  M&A及び海外エリア拡大による増収
-  既存事業の成長による増収

(百万円)

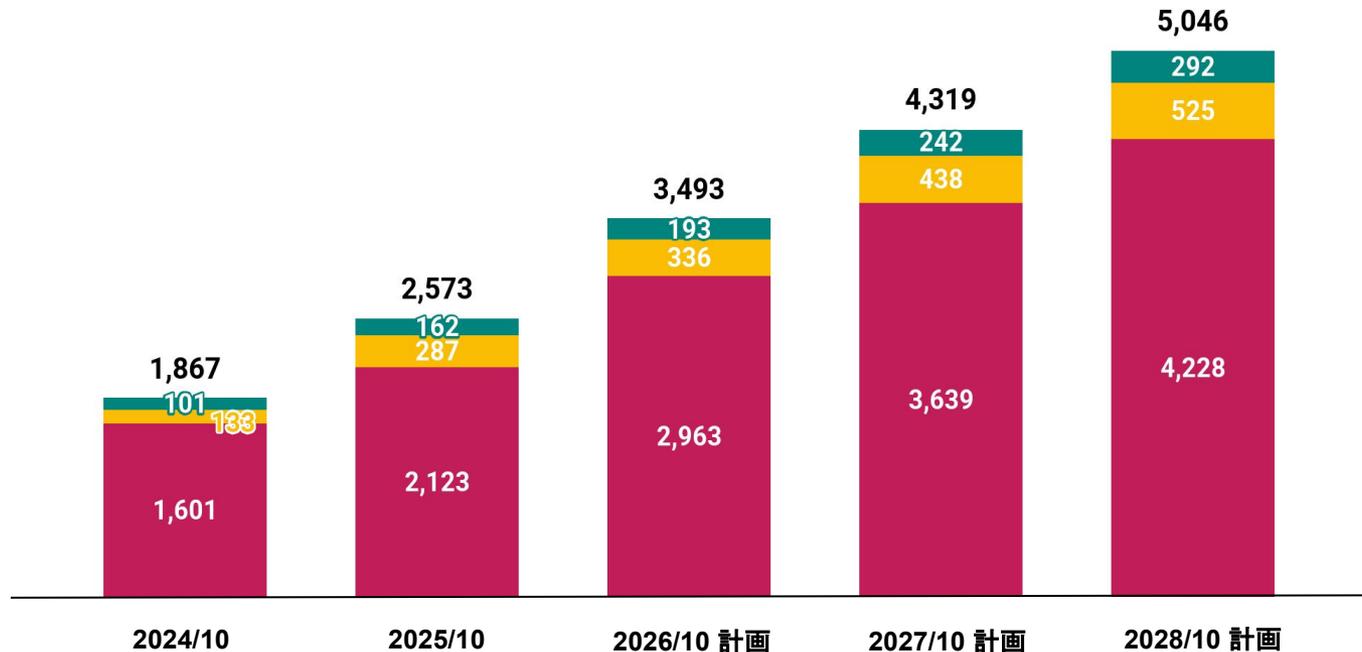
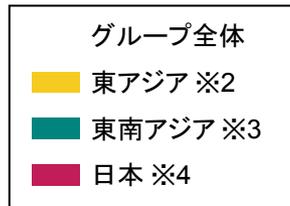


既存事業の成長のみで 2028年10月期に営業収益 50億円を計画

- 日本: tripla Bookの決済収益を中核的な成長ドライバーとし、
他プロダクトのクロスセルを通じて収益の最大化と持続的成長を加速
- 海外: 既存グループ会社の PMIによる収益改善と、既存市場でのシェア拡大

営業収益※1

(百万円)



※1: M&A及び展開国の拡大による増収は含まない。

※2: 韓国支店、tripla Taiwan Co., Ltd.(翠普拉台灣股份有限公司)、Surehigh International Technology Inc.(旭海國際科技股份有限公司)及びJASON FAMILY TRAVEL SERVICEの数値

※3: tripla Singapore PTE. Ltd.、インドネシア事業を担う子会社 PT. tripla BookandLink Indonesia、tripla Philippines Technologies Inc.の数値。

※4: 単体P/L営業収益から台湾支店、韓国支店の営業数値を除く。

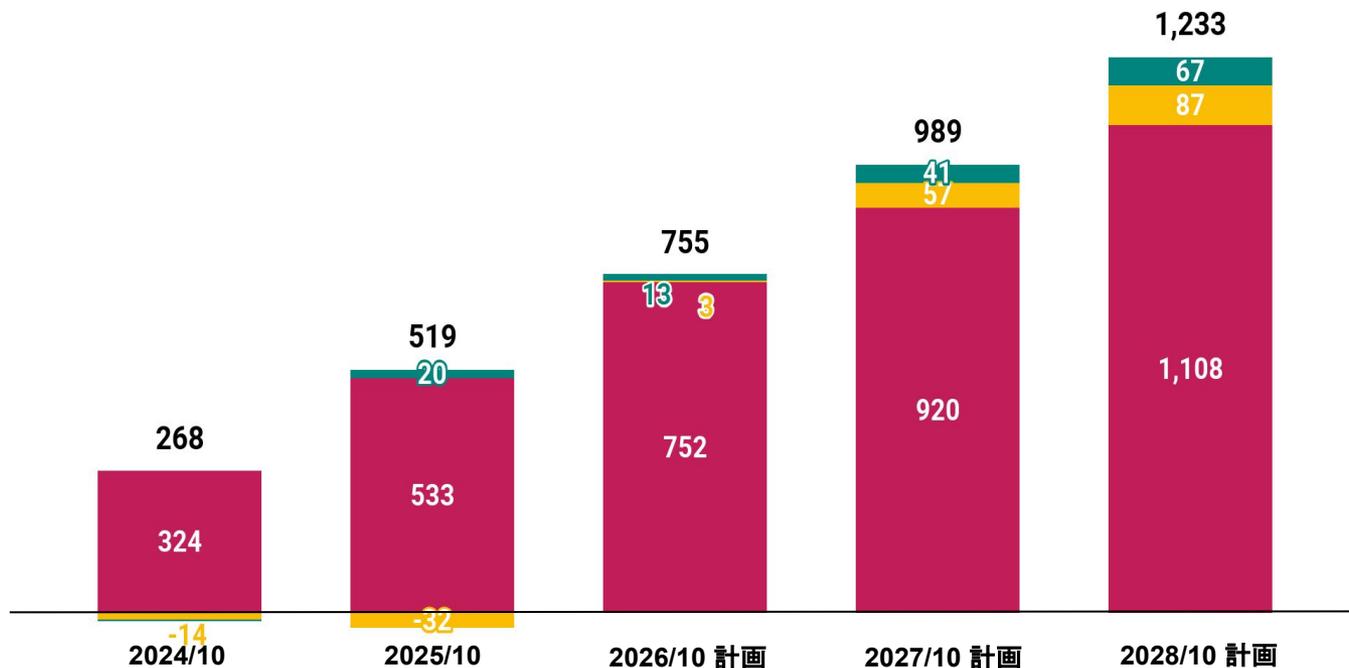
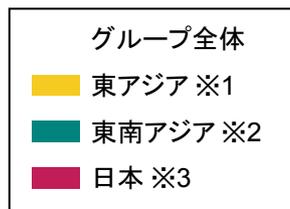
2028年10月期に営業利益 12億円超を計画

- 2026年10月期もtripla Bookを中心に日本市場が牽引。
- グローバル市場ではワンプロダクト統合・プロダクト置き換えを継続することで、最適な人員配置によりコスト最適化及び収益性の改善を目指す

【前提条件】・東アジア、東南アジアの営業利益はのれん償却額を控除後の金額

営業利益

(百万円)



※1: 韓国支店、tripla Taiwan Co., Ltd.(翠普拉台灣股份有限公司)、Surehigh International Technology Inc.(旭海國際科技股份有限公司)及びJASON FAMILY TRAVEL SERVICEの数値

※2: tripla Singapore PTE. Ltd.、インドネシア事業を担う子会社T. tripla BookandLink Indonesia、tripla Philippines Technologies Inc.の数値。

※3: 単体P/L営業収益から台湾支店、韓国支店の営業数値を除く。

※4: 営業利益合計額は、連結/LLにおいて計上されるM&A関連の一時的費用(デューデリジェンス費用Valuation Report作成費用等)を含めた数値であり、表中の各項目を単純に合算した数値とは一致しません。

中長期の利益計画

中長期的な利益成長方針は変わらず、2027年10月期については人件費の高騰など外部環境変化に対応するため、営業利益計画を適正化

	2024年10月期 実績	2025年10月期 実績	2026年10月期 計画	2027年10月期 計画	2028年10月期 計画	2026年10月期 前回の計画差	2027年10月期 前回の計画差
営業収益(連結)	1,867,358	2,573,543	3,493,224	4,319,916	5,046,121	+39,831 (+1.2%)	+22,770 (+0.5%)
日本※ ¹	1,639,787	2,150,330	2,963,491	3,639,312	4,228,094	+189,254 (+6.8%)	+278,885 (+8.3%)
東アジア※ ²	111,511	260,509	336,572	438,131	525,579	▲89,295 (▲21.0%)	▲172,208 (▲28.2%)
東南アジア※ ³	116,060	162,398	193,160	242,472	292,447	▲60,127 (▲23.7%)	▲83,906 (▲25.7%)
営業収益成長率	+58.8%	+37.8%	+35.7%	+23.7%	+16.8%	-	-
営業利益(連結) ※ ⁴	268,497	519,841	755,721	989,460	1,233,685	▲2,609 (▲0.3%)	▲214,030 (▲17.8%)
日本※ ¹	324,426	533,942	752,623	920,959	1,108,265	+128,076 (+20.5%)	+110,053 (+13.6%)
東アジア※ ²	▲7,940	▲32,199	3,398	57,075	87,702	▲108,551 (▲97.0%)	▲228,055 (▲80.0%)
東南アジア※ ³	▲23,463	20,370	13,839	41,426	67,717	▲57,994 (▲80.7%)	▲94,465 (▲69.5%)
営業利益率(連結)	14.5%	20.2%	21.6%	22.9%	24.2%	-	-
営業利益率(日本)	20.1%	24.8%	25.4%	25.3%	26.2%	-	-
経常利益(連結)	244,591	583,993	813,948	1,067,555	1,314,220	+95,564 (+13.3%)	▲97,802 (▲8.4%)
当期純利益(連結)	209,389	505,441	515,368	695,633	875,641	▲12,336 (▲2.3%)	▲198,943 (▲22.2%)
親会社株主に帰属する 当期純利益(連結)	209,389	501,815	510,312	687,116	862,609	▲12,332 (▲2.4%)	▲196,787 (▲22.3%)

※1: 2024年10月期及び2025年10月期の台湾支店、韓国支店の営業数値については、相対的に少額であるため、日本に含めて表示。

※2: tripla Taiwan Co., Ltd.(翠普拉台灣股份有限公司)、Surehigh International Technology Inc.(旭海國際科技股份有限公司)及びJASON FAMILY TRAVEL SERVICE、韓国支店の数値。また上記営業利益はのれん償却額を控除後の額。

※3: tripla Singapore PTE. Ltd.、インドネシア事業を担う子会社PT. tripla BookandLink Indonesia、tripa Philippines Technologies Inc.の数値。また上記営業利益はのれん償却額を控除後の額。

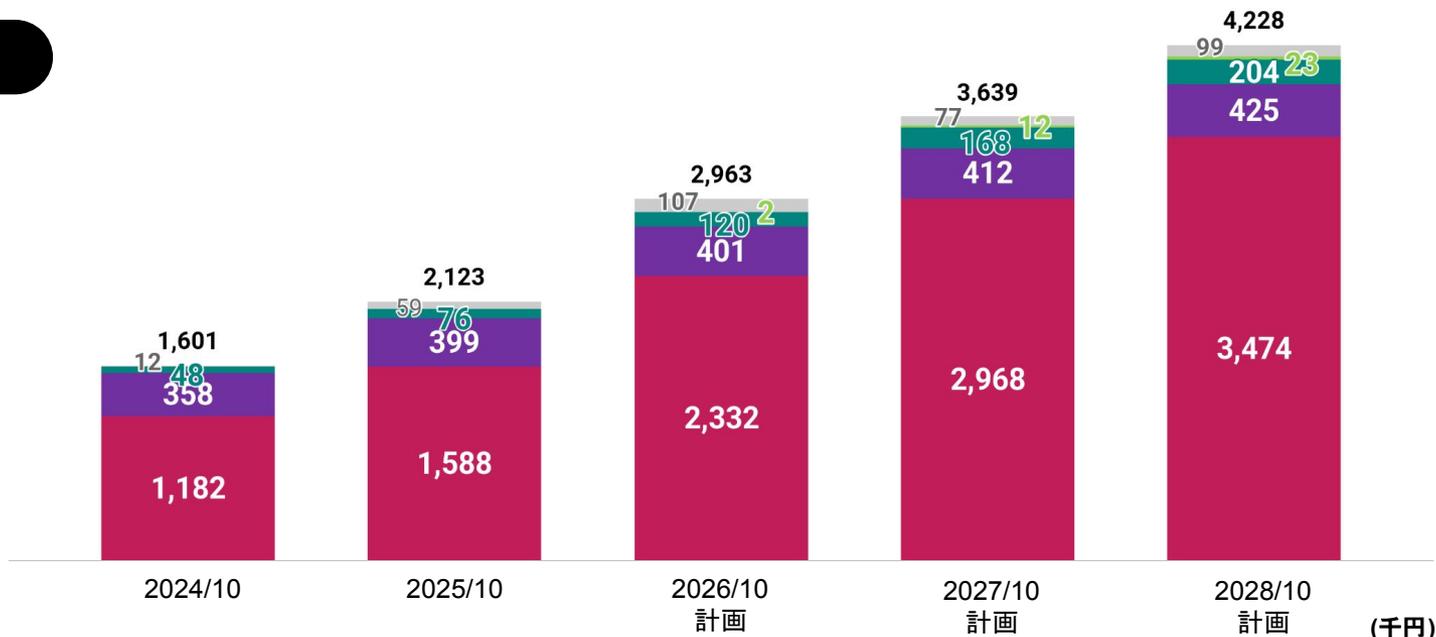
※4: 営業利益(連結)は、連結P/Lにおいて計上される可能性のあるM&A関連の一時的费用(デューデリジェンス費用、Valuation Report作成費用等)を含めた数値であり、

表中の各エリア別の営業利益を単純に合算した数値とは一致しません。

2025年10月期に続きBookが成長を牽引するとともに，中長期ではConnect、Link等のサービスをクロスセルで拡大

営業収益※1

(百万円)

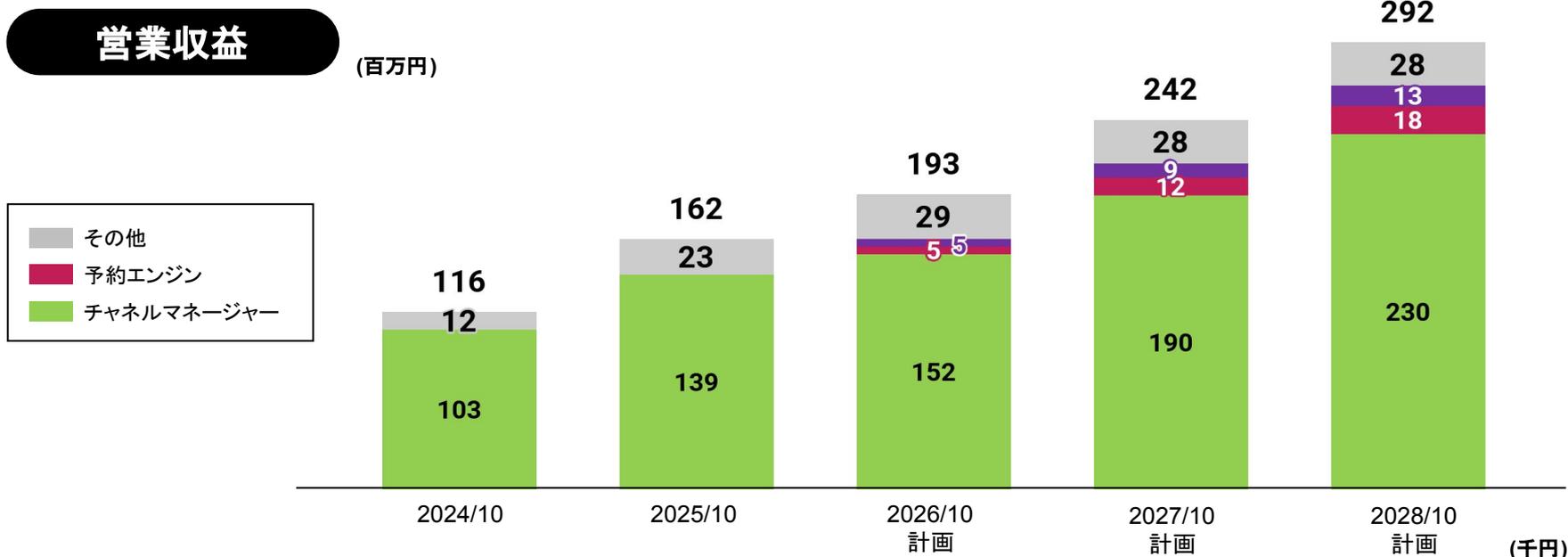


	2024/10	2025/10	2026/10 計画	2027/10 計画	2028/10 計画
tripla Book	1,182,596	1,588,090	2,332,087	2,968,928	3,474,568
tripla Bot	358,037	399,042	401,129	412,706	425,222
tripla Connect	48,551	76,482	120,205	168,059	204,947
tripla Link	-	-	2,311	12,595	23,417
その他	28,734	59,952	107,757	77,022	99,938
合計	1,617,919	2,123,684	2,963,491	3,639,312	4,228,094

※1: 台湾支店、韓国支店分を除いた数値。

営業収益 – 東南アジア (インドネシア・タイ・フィリピン)

チャネルマネージャーを中心に拡大と同時に tripla Bookを市場展開進める。

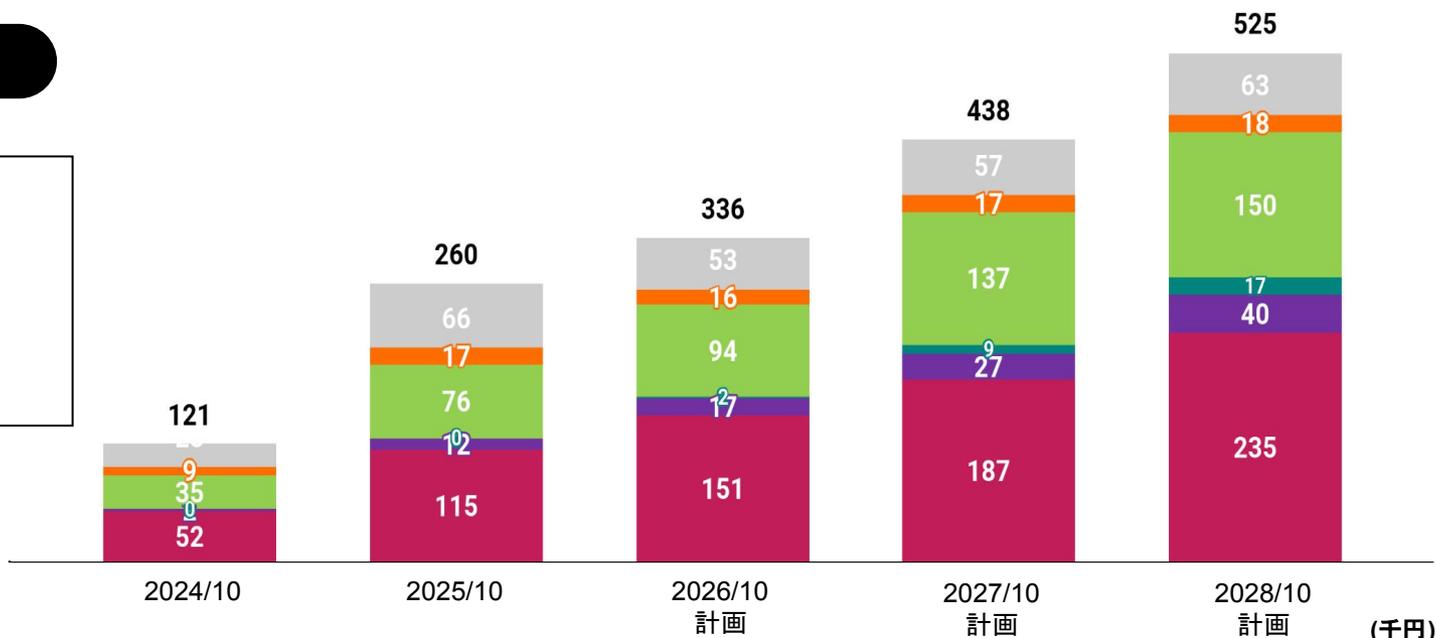


	2024/10	2025/10	2026/10 計画	2027/10 計画	2028/10 計画	(千円)
予約エンジン	-	-	5,810	12,957	18,915	
tripla Bot	-	-	5,220	9,957	13,915	
チャネルマネージャー	103,550	139,711	152,789	190,575	230,790	
その他	12,510	34,726	29,550	28,981	28,827	
合計	116,060	162,398	193,160	242,472	292,447	

営業収益 – 東アジア (台湾・韓国)

プロダクト統合による収益性の改善と日本プロダクトを新たに東アジアに展開することで拡大を狙う

営業収益



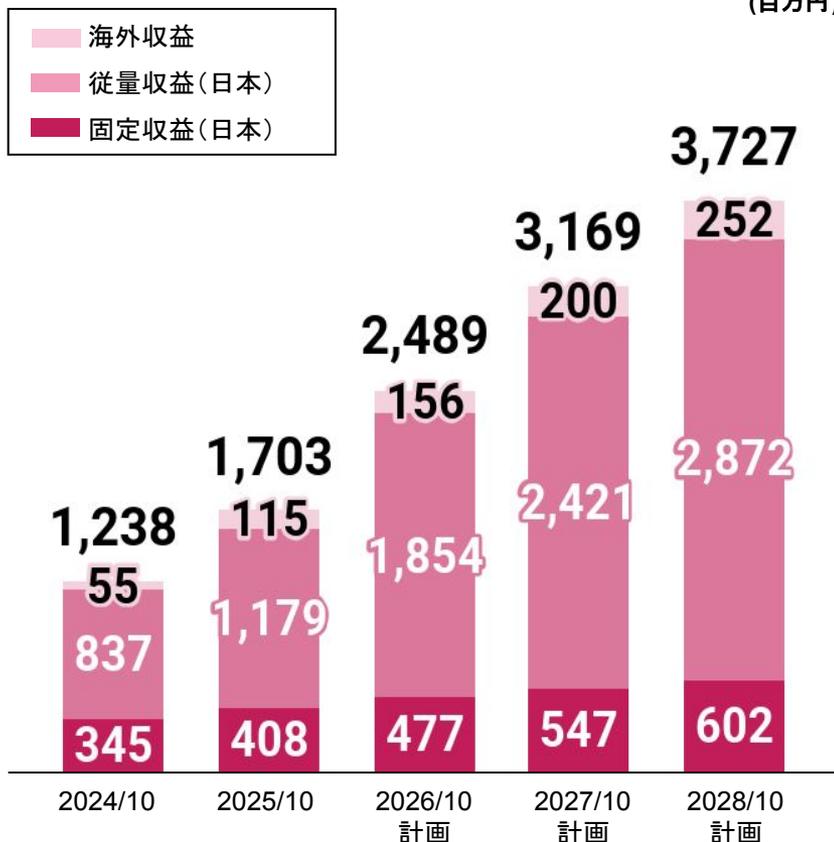
	2024/10	2025/10	2026/10 計画	2027/10 計画	2028/10 計画
予約エンジン	50,257	107,243	151,586	187,377	235,706
tripla Bot	951	11,011	17,914	27,882	40,112
tripla Connect	-	-	2,892	9,826	17,014
チャンネルマネージャー	35,021	80,172	94,413	137,988	150,720
ウェブサイトビルダー	9,054	18,113	16,432	17,442	18,810
その他	23,978	69,345	53,332	57,615	63,216
合計	121,256	260,509	336,572	438,131	525,579

営業収益 – セグメント別 (tripla Book)

導入施設数はチェーンホテル or 単館の大小問わず順調に拡大を計画。従量収益は決
済収益の増加を見込む。

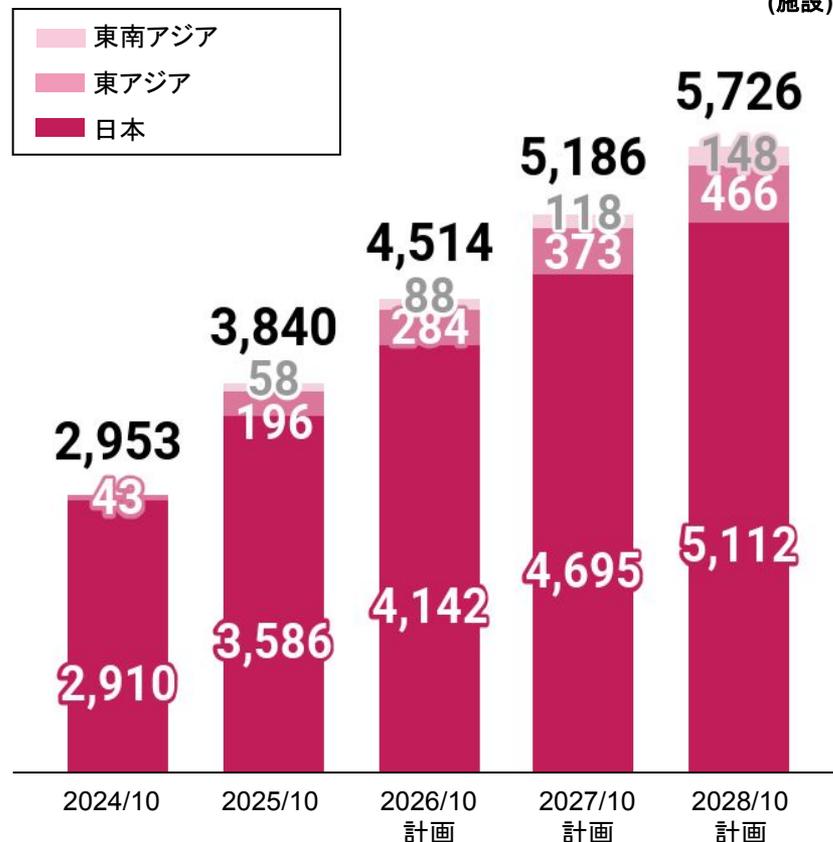
Book 営業収益

(百万円)



導入施設数

(施設)



※1: tripla Singapore PTE. Ltd.、インドネシア事業を担う子会社T. tripla BookandLink Indonesia、tripla Philippines Technologies Inc.の数値。

※2: 韓国支店、tripla Taiwan Co., Ltd.(翠普拉台灣股份有限公司)、Surehigh International Technology Inc.(旭海國際科技股份有限公司)及びJASON FAMILY TRAVEL SERVICEの数値

※3: 単体P/L営業収益から台湾支店、韓国支店の営業数値を除く。

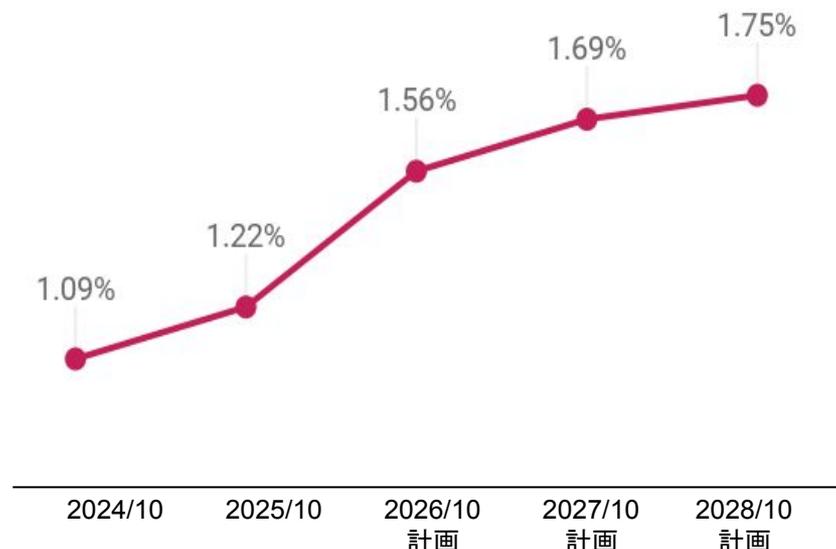
2025年10月期は決済開発の一時的なミスにより 1.22%と着地するものの、2026年10月期以降は当初のトレンドで推移を計画。決済ソリューションの強化でさらなる take rate向上。

取扱高 GMV(日本)

(億円)



従量収益のtake rate推移(日本)



Net GMVに対するtake rate

= (宿泊従量課金による収益 + 決済従量課金による収益) ÷ (GMV - 宿泊従量課金の対象でない GMV ※3)

※1: Gross Merchandise Valueの略。

※2: 各宿泊施設が、tripla Book契約前に利用していた他社公式サイト予約エンジンによる過去 1年間の宿泊実績(月毎)を原則とする。契約時に決定しその後の変更は行っていない。

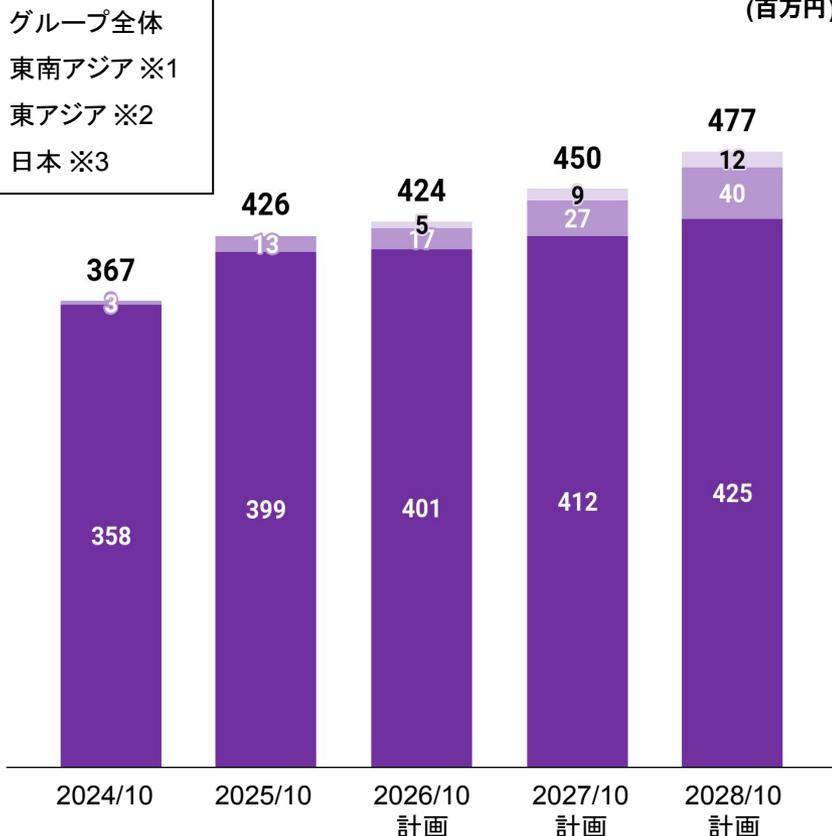
※3: 一部の大口顧客等に対しての特殊な条件での契約により、「宿泊従量課金」による営業収益が発生しない GMV。「決済従量課金」による営業収益は発生。

営業収益 - セグメント別 (tripla Bot)

2025年10月期はフルサービスプランの利用増による増収。 tripla Bookとのクロスセルにより施設数を積み上げる。

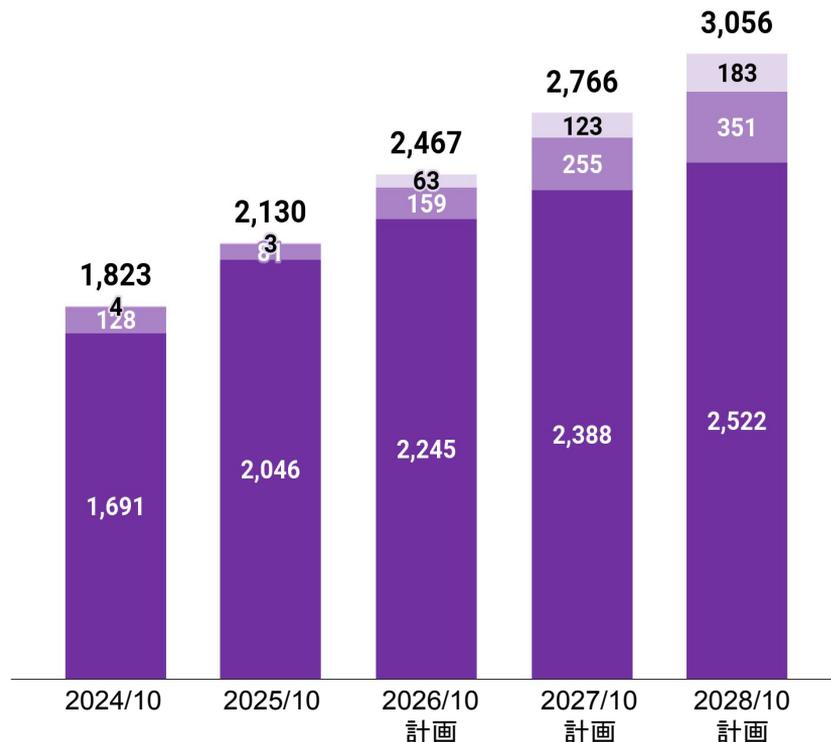
Bot営業収益

(百万円)



導入施設数

(施設)



※1: tripla Singapore PTE. Ltd.、インドネシア事業を担う子会社T. tripla BookandLink Indonesia、tripla Philippines Technologies Inc.の数値。

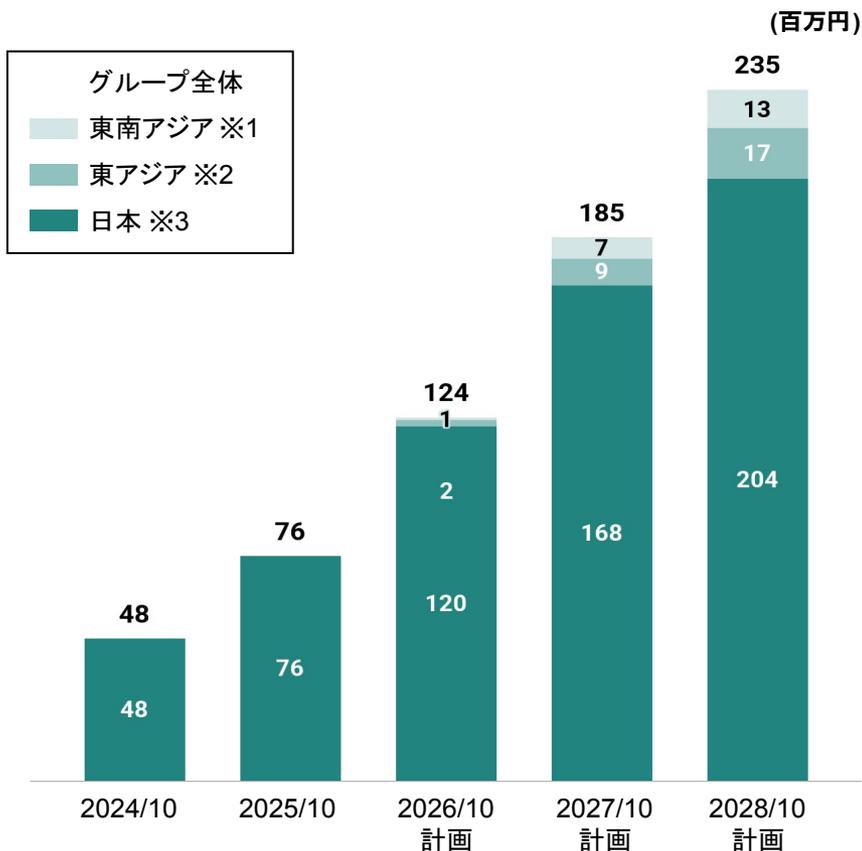
※2: 韓国支店、tripla Taiwan Co., Ltd.(翠普拉台灣股份有限公司)、Surehigh International Technology Inc.(旭海國際科技股份有限公司)及びJASON FAMILY TRAVEL SERVICEの数値

※3: 単体P/L営業収益から台湾支店、韓国支店の営業数値を除く。

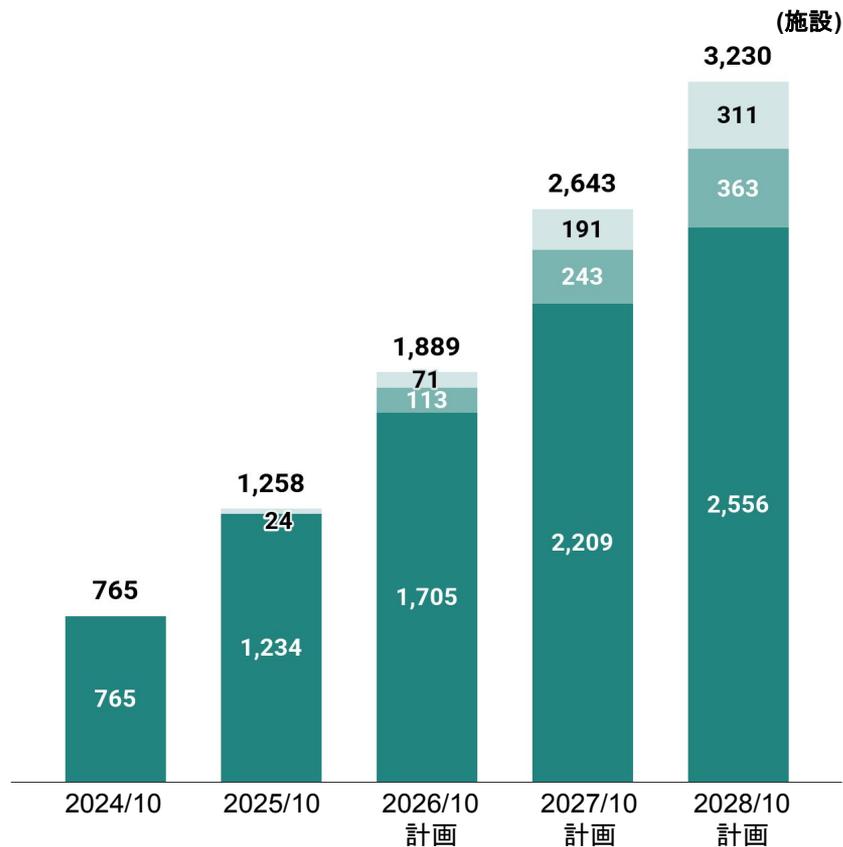
営業収益 - セグメント別 (tripla Connect)

前期末から純増 471 施設の獲得。tripla Bookとのクロスセルにより増加。海外展開も開始。

Connect 営業収益



導入施設数



※1: tripla Singapore PTE. Ltd.、インドネシア事業を担う子会社T. tripla BookandLink Indonesia、tripla Philippines Technologies Inc.の数値。

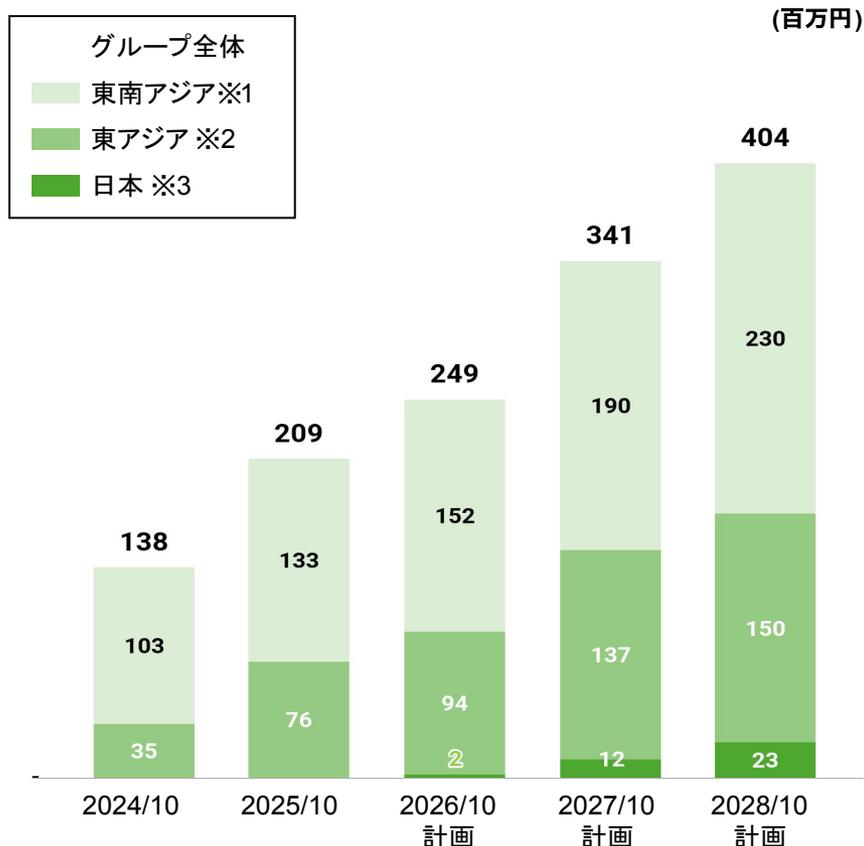
※2: 韓国支店、tripla Taiwan Co., Ltd.(翠普拉台灣股份有限公司)、Surehigh International Technology Inc.(旭海國際科技股份有限公司)及びJASON FAMILY TRAVEL SERVICEの数値

※3: 単体P/L営業収益から台湾支店、韓国支店の営業数値を除く。

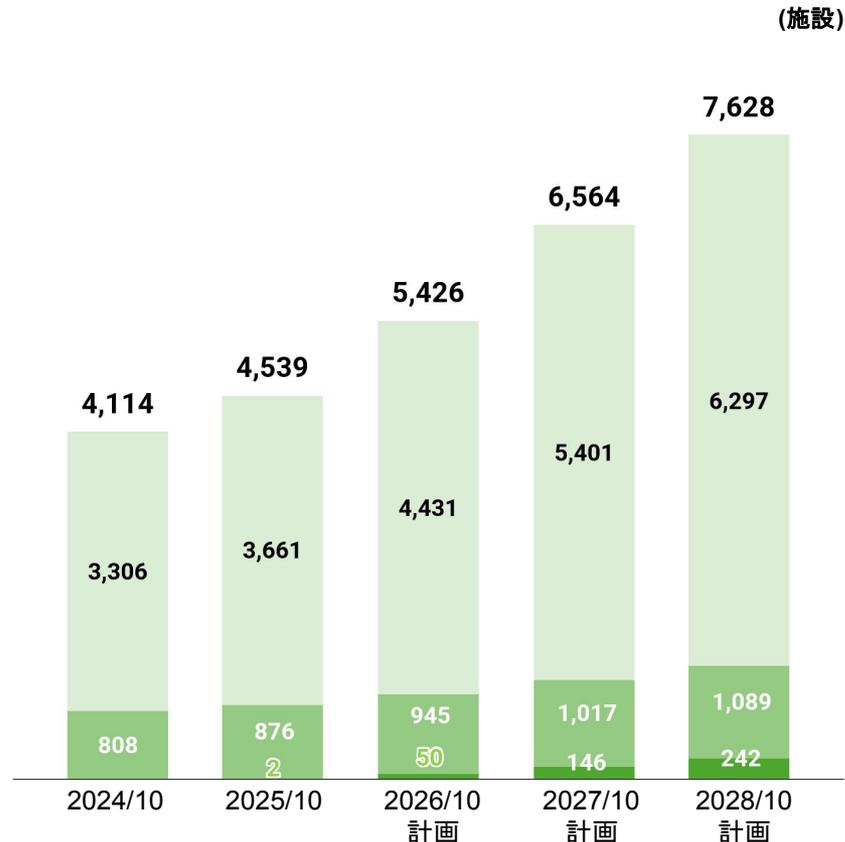
営業収益 - セグメント別 (tripla Link&Nexus)

2026年10月期より tripla Link&Nexus の目標数値開示。
海外を中心に拡大し、日本マーケットでも展開を進める。

Link&Nexus 営業収益 ※1



導入施設数



※1: 各セグメントのアーブ。東南アジア:3千円、東アジア 9千円、日本:4千円

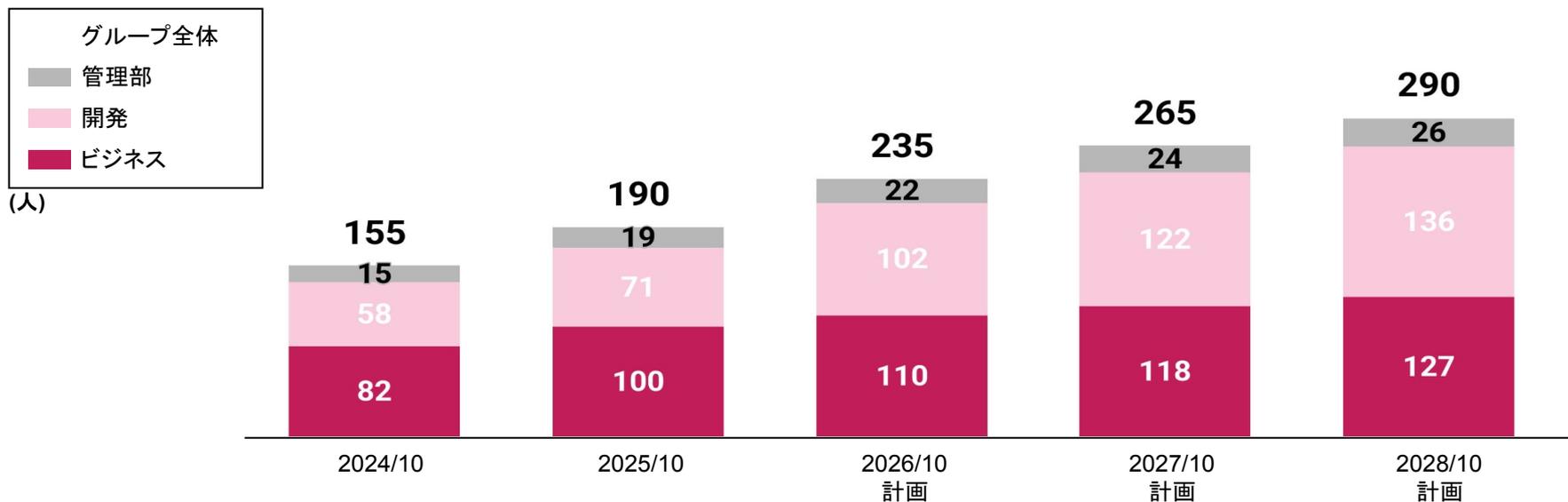
※2: tripla Singapore PTE. Ltd.、インドネシア事業を担う子会社T. tripla BookandLink Indonesia、tripla Philippines Technologies Inc.の数値。

※3: 韓国支店、tripla Taiwan Co., Ltd.(翠普拉台灣股份有限公司)、Surehigh International Technology Inc.(旭海國際科技股份有限公司)及びJASON FAMILY TRAVEL SERVICEの数値。

※4: 単体P/L営業収益から台湾支店、韓国支店の営業数値を除く。

triplaグループの従業員数

- 海外のマーケット拡大、プロダクト統一を目的に、エンジニア採用を継続
- エンジニアの採用はインドネシア中心にコストパフォーマンスで最適な人材を採用(他台湾、日本等)
- PMIを進めることで1プロダクト1ブランドで統一し、人員及びコスト最適化 (※1)



ビジネス	82	100	110	118	127
開発※2	58	71	102	122	136
管理部	15	19	22	24	26
グループ全体※3	155	190	235	265	290

※1: たとえば、予約エンジンであれば、現在、日本の「tripla Book」以外に買収先が展開している「EZ hotel」、「Booking Ku」、「Pelican Hotel Solution」という同種のプロダクトが複数存在しているが、これらをtripla Bookに統一し、プロダクトごとの重複した開発は行わないことで、コスト最適化を図る。

※2: プロダクトマネージャー、デザイナー、QAテスター等の製品関連のメンバーを含む。

※3: 各従業員数は臨時雇用者、業務委託者を除く。

Agenda

外部環境に対する当社の事業耐性

2026年10月期 1Q 概要

会社概要

triplaの経営戦略

2026年10月期 業績計画（再掲）

➤ **Appendix**

Appendix - アジアパシフィックにおける宿泊市場規模・宿泊施設数

ステータス	対象国	営業宿泊施設数	宿泊市場規模
進出済	日本	60,000	5兆円
	韓国	50,000	1兆円
	台湾	30,000	8,000億円
	インドネシア	40,000	1兆円
	タイ	50,000	2兆円
	フィリピン	40,000	3,000億円
検討中	ベトナム	50,000	1.6兆円
	マレーシア	40,000	8,000億円
	シンガポール	600	4,500億円
	豪州	50,000	2兆円

<https://www.statista.com> :日本、シンガポール、豪州、台湾 <https://www.mots.go.th> :タイ

<https://www.cbre.com> :マレーシア

<https://www.ihra.or.id> :インドネシア

<https://phoa.ph> :フィリピン

<https://www.ibisworld.com> :ベトナム

※ ここで言う市場規模は、宿泊自体の市場規模であり、当社が対象としているITサービスとは異なります。

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づくものであり、当社の事業計画、市場規模、競合状況、業界に関する情報及び成長余力等が含まれます。そのため、将来の結果を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。実際の結果は環境の変化などにより、将来の見通しと大きく異なる可能性があることにご留意ください。

上記の実際の結果に影響与える要因としては、国内外の経済情勢や当社の関連する業界動向等が含まれますが、これらに限られるものではありません。

本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保障するものではありません。

今後、「事業計画及び成長可能性に関する事項」は、期末決算発表の際に開示する予定です。次回は2026年12月のアップデートを予定しております。